

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄							備 考	
計 画 の 区 分		研究科等連係課程実施基本組織の設置（研究科の設置）								
フ リ ガ ナ 設 置 者		コクリツダイガクホウジンヒロシマダイガク 国立大学法人広島大学								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ヒロシマダイガクダイガクイン 広島大学大学院（Graduate School of Hiroshima University）								
大 学 本 部 の 位 置		広島県東広島市鏡山一丁目3番2号								
大 学 の 目 的		「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、次に掲げる理念に基づき、未来を担う有能な人材を養成するとともに学術を継承・発展させ、もって地域社会及び国際社会の発展に貢献するものとする。 (1) 平和を希求する精神 (2) 新たなる知の創造 (3) 豊かな人間性を培う教育 (4) 地域社会・国際社会との共存 (5) 絶えざる自己変革								
新設研究科等の目的		海洋・海事・造船分野は、複雑な自然環境を考慮しつつ、多分野を統合した大規模システムの最適化を行い、多様な産業・規制・社会的要請に応える学術分野であり、専門性と俯瞰力を持ったグローバル人材の質と量を向上させることが必要である。この要請に応えるため、国際的視野と教養を備え、海洋・海事・造船分野に関わる①海洋政策・海洋ガバナンス、②海洋利用技術、③海洋環境・海洋資源の3領域の基礎的知識に加え、各領域の高度な専門知識及び応用力を身に付けた、以下のような文理融合型高度人材を養成する。 ・国際海洋法や政策・経済的背景を理解し、海洋資源の持続可能な利用に向けた国際的な合意形成や、地域の海洋政策の立案に貢献できる人材 ・文理を横断する「海洋の総合知」を備え、多様なステークホルダーと連携しながら、地球規模の海洋課題に対して社会実装を通じた解決策を提示できる人材								
	新設研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及 び開設年次	所在地	14条特例の実施
	〔研究科等連係課程実施基本組織〕 海洋・海事系実践科学 研究院 [Graduate School of Maritime and Marine Science] 〔連係協力研究科等〕 (Ⅰ) 教育人文社会科学研 究科 [Graduate School of Education, Humanities and Social Sciences]	2	15	— 年次 人	30 人	修士（海洋・ 海事科学） 【Master of Maritime and Marine Science】	法学関係 経済学関係 理学関係 工学関係 農学関係	令和9年 10月 第 年次	広島県呉市西中 央一丁目3番31号 広島県東広島市 鏡山一丁目2番1 号 広島県東広島市 鏡山一丁目4番1 号 広島県東広島市 鏡山一丁目4番4 号 広島県広島市中 区東千田町一丁 目1番89号	

新設研究科等の概要	人文社会科学専攻 (博士課程前期) [Division of Humanities and Social Sciences]	2	257	—	514	修士 (文学) 【Master of Arts】 修士 (心理学) 【Master of Psychology】 修士 (法学) 【Master of Laws】 修士 (経済学) 【Master of Economics】 修士 (ソーシャルデータサイエンス) 【Master of Social Data Science】 修士 (マネジメント) 【Master of Management】 修士 (経営学) 【Master of Business Administration】 修士 (国際協力学) 【Master of International Cooperation Studies】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係	令和2年4月 第1年次	広島県東広島市 鏡山一丁目2番3号
	人文社会科学専攻(博士課程前期)から海洋・海事系実践科学研究院の内数とする入学定員数	4	—	8					
	【連携協力研究科等】 (Ⅱ) 先進理工系科学研究科 [Graduate School of Advanced Science and Engineering]								
	先進理工系科学専攻 (博士課程前期) [Division of Advanced Science and Engineering]	2	553	—	1, 106	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (情報科学) 【Master of Informatics and Data Science】 修士 (国際協力学) 【Master of International Cooperation Studies】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	理学関係 工学関係	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目4番1号
	先進理工系科学専攻 (博士課程前期) から 海洋・海事系実践科学 研究院の内数とする入 学定員数	7	—	14					
	【連携協力研究科等】 (Ⅲ) 統合生命科学研究科 [Graduate School of Integrated Sciences for Life]								
	統合生命科学専攻 (博士課程前期) [Division of Integrated Sciences for Life]	2	170	—	340	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (農学) 【Master of Agriculture】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	理学関係 工学関係 農学関係	平成31年4 月 第1年次	東広島市鏡山一丁目4番4号 東広島市鏡山一丁目3番1号 東広島市鏡山一丁目7番1号

		統合生命科学専攻（博士課程前期）から海洋・海事系実践科学研究院の内数とする入学定員数		4	—	8					
		計		—	—	—					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		○同一設置者内における変更状況 令和9年4月 名称変更 工学部第二類(電気電子・システム情報系) → 工学部第二類(半導体・電気システム情報系) 人間社会科学研究科 → 教育人文社会科学研究科 令和9年4月 3年次編入学定員変更 文学部人文学科〔定員減〕(△5) 理学部〔定員減〕(△10) 理学部数学科〔定員増〕(2) 理学部物理学科〔定員増〕(2) 理学部化学科〔定員増〕(2) 工学部第二類(電気電子・システム情報系)〔定員増〕(10) 生物生産学部生物生産学科〔定員減〕(△5) 令和9年4月 入学定員の変更 教育人文社会科学研究科人文社会科学専攻(D)〔定員減〕(△8) 教育人文社会科学研究科教育科学専攻(D)〔定員増〕(8) 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(M)〔定員増〕(70)									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	海洋・海事系実践科学研究院	87科目	5科目	2科目	94科目	30単位					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	(注) <>の中の数は、研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員。 【】の中の数は、研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等に従事する専任教員。 教育人文社会科学研究科は、令和8年4月名称変更届出		
		教授	准教授	講師	助教	計					
新	〔研究科等連係課程実施基本組織〕 海洋・海事系実践科学研究院	人 <1> 【17】 (18)	人 <3> 【11】 (14)	人 <0> 【0】 (0)	人 <0> 【1】 (1)	人 <4> 【29】 (33)	人 <0> 【0】 (0)	人 102 (91)			
設	〔連係協力研究科等〕(Ⅰ) 教育人文社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期) 〔連係協力研究科等〕(Ⅱ) 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程前期) 〔連係協力研究科等〕(Ⅲ) 統合生命科学研究科統合生命科学専攻 (博士課程前期)										
分	計	18 (18)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	33 (33)	0 (0)	— (—)			
既	教育人文社会科学研究科人文社会科学専攻（博士課程前期）	72 【2】 (80)	87 【2】 (91)	3 【0】 (3)	30 【1】 (30)	192 【5】 (204)	0 【0】 (0)	183 (183)			
	教育人文社会科学研究科人文社会科学専攻（博士課程後期）	65 (74)	86 (90)	2 (2)	30 (30)	183 (196)	0 (0)	37 (37)			
	教育人文社会科学研究科教育科学専攻（博士課程前期）	46 (54)	60 (60)	6 (6)	12 (12)	124 (132)	0 (0)	173 (173)			
	教育人文社会科学研究科教育科学専攻（博士課程後期）	52 (61)	65 (65)	8 (8)	12 (12)	137 (146)	0 (0)	44 (44)			
	教育人文社会科学研究科教職開発専攻（専門職学位課程）	6 (6)	8 (9)	2 (2)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	160 (160)			
	教育人文社会科学研究科実務法学専攻（専門職学位課程）	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	155 (155)			
	教育人文社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻（修士課程）	4 (5)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	6 (7)	0 (0)	69 (69)			
設	先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期）	140 【12】 (156)	145 【7】 (149)	0 【0】 (0)	68 【0】 (70)	353 【19】 (375)	0 【0】 (0)	155 (155)			
	先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期）	123 (139)	145 (149)	0 (0)	65 (67)	333 (355)	0 (0)	28 (28)			
	統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程前期）	48 【3】 (56)	56 【2】 (60)	4 【0】 (4)	27 【0】 (27)	135 【5】 (147)	0 【0】 (0)	123 (123)			
	統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程後期）	48 (56)	51 (55)	4 (4)	38 (38)	141 (153)	0 (0)	63 (63)			
	医系科学研究科医歯薬学専攻（博士課程）	60 (70)	54 (55)	55 (56)	72 (74)	241 (255)	0 (0)	80 (80)			

分	医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程前期）		58 (65)	42 (42)	16 (16)	45 (46)	161 (169)	0 (0)	162 (162)			
	医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程後期）		31 (34)	22 (22)	12 (12)	24 (24)	89 (92)	0 (0)	68 (68)			
	スマートソサイエティ実践科学研究院（博士課程前期）		28 (29)	18 (18)	0 (0)	7 (7)	53 (54)	0 (0)	99 (99)			
	スマートソサイエティ実践科学研究院（博士課程後期）		28 (29)	18 (18)	0 (0)	7 (7)	53 (54)	0 (0)	29 (29)			
	計		393 (448)	429 (443)	81 (82)	243 (247)	1,146 (1,220)	0 (0)	－ (－)			
合 計			394 (449)	432 (446)	81 (82)	243 (247)	1,150 (1,224)	0 (0)	－ (－)			
職 種			専 属			その他			計			
事 務 職 員			556 (556)			893 (893)			1,449 (1,449)			
技 術 職 員			1,311 (1,311)			351 (351)			1,662 (1,662)			
図 書 館 職 員			24 (24)			0 (0)			24 (24)			
そ の 他 の 職 員			5 (5)			322 (322)			327 (327)			
指 導 補 助 者			0 (0)			49 (49)			49 (49)			
計			1,896 (1,896)			1,615 (1,615)			3,511 (3,511)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		1,195,641㎡		425㎡		0㎡		1,196,066㎡			
	そ の 他		1,133,812㎡		0㎡		0㎡		1,133,812㎡			
	合 計		2,329,453㎡		425㎡		0㎡		2,329,878㎡			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
			542,569㎡ (542,569㎡)		90㎡ (90㎡)		0㎡ (0㎡)		542,659㎡ (542,659㎡)			
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室			講義室		実験・実習室		演習室		新設研究科等の専任教員研究室			
			219室		1,513室		364室		33室			
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点		
			冊		種		〔うち外国書〕					
			3,385,949 [1,240,243] (3,385,949 [1,240,243])		10,977 [5,755] (10,977 [5,755])		66,140 [30,378] (66,140 [30,378])		6,366 [6,366] (6,366 [6,366])		21,637 (21,637)	144 (144)
	計		3,385,949 [1,240,243] (3,385,949 [1,240,243])		10,977 [5,755] (10,977 [5,755])		66,140 [30,378] (66,140 [30,378])		6,366 [6,366] (6,366 [6,366])		21,637 (21,637)	144 (144)
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
		教員1人当り研究費等			－	－	－	－	－			
		共同研究費等			－	－	－	－	－			
		図書購入費		－	－	－	－	－	－			
		設備購入費		－	－	－	－	－	－			
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次				
				－	－	－	－	－				
学生納付金以外の維持方法の概要			－									
大 学 等 の 名 称 広島大学												
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地			
総合科学部		年	人	年次人	人		倍		広島県東広島市鏡山一丁目7番1号			
総合科学科		4	120	－	480	学士(総合科学)	1.10 《1.04》 1.11 《1.05》	昭49				
国際共創学科		4	40	－	160	学士(総合科学)	1.06 《1.00》	平30				

文学部								
人文学科	4	130	3年次10	540	学士(文学)	1.07 《1.04》 1.07 《1.04》	平9	広島県東広島市鏡山 一丁目2番3号
教育学部								
第一類(学校教育系)	4	137	—	548	学士(教育学)	1.05 《1.03》 1.03 《1.01》	平12	広島県東広島市鏡山 一丁目1番1号
第二類(科学文化教育系)	4	82	—	328	学士(教育学)	1.04 《1.03》	平12	
第三類(言語文化教育系)	4	73	—	292	学士(教育学)	1.08 《1.05》	平12	
第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	324	学士(教育学)	1.05 《1.03》	平12	
第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	208	学士(教育学) 学士(心理学)	1.07 《1.05》	平12	
法学部								
法学科(昼間コース)	4	140	3年次5	570	学士(法学)	1.05 《1.01》 1.06 《1.02》	平7	広島県広島市中区東 千田町一丁目1番89 号
(夜間主コース)	4	30	3年次5	130	学士(法学)	1.01 《0.94》	平7	
経済学部								
経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	610	学士(経済学)	1.10 《1.05》 1.10 《1.06》	平7	広島県東広島市鏡山 一丁目2番1号
(夜間主コース)	4	45		180	学士(経済学)	1.10 《1.01》	平7	広島県広島市中区東 千田町一丁目1番89
理学部								
数学科	4	47	3年次 10	188	学士(理学)	1.07 《1.02》 1.09 《1.03》	昭24	広島県東広島市鏡山 一丁目3番1号
物理学科	4	66		264	学士(理学)	1.11 《1.04》	平10	
化学科	4	59		236	学士(理学)	1.09 《1.04》	昭24	
生物科学科	4	34		136	学士(理学)	1.10 《1.06》	平5	
地球惑星システム学科	4	24		96	学士(理学)	1.09 《1.04》	平4	
医学部								
医学科	6	120	—	712	学士(医学)	1.04 《1.01》 1.02 《1.01》 1.04 《1.01》	昭28	広島県広島市南区霞 一丁目2番3号
保健学科	4	120	—	480		1.02 《1.01》		
看護学専攻	4	60	—	240	学士(看護学)	1.02 《1.01》	平4	
理学療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.01 《1.00》	平4	
作業療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.03 《1.00》	平4	
歯学部								
歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.00 《0.96》 1.02 《1.00》 1.00 《0.96》	昭40	広島県広島市南区霞 一丁目2番3号
口腔健康科学科	4	40	—	160		1.02 《1.00》		
口腔保健学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.03 《1.02》	平21	

6年制学科
4年制学科
令和8年度における
臨時的な定員
増(15人)

6年制学科
4年制学科

	口腔工学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1. 01 《0. 98》	平21		
	薬学部								広島県広島市南区霞 一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
	薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1. 04 《1. 03》 1. 06 《1. 02》	平18		
	薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1. 04 《1. 03》 1. 06 《1. 02》	平18		
	工学部								広島県東広島市鏡山 一丁目4番1号	
	第一類(機械・輸 送・材料・エネル ギー系)	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1. 06 《1. 02》 1. 03 《1. 00》	平30		
	第二類(電気電子・ システム情報系)	4	100	3年次3	386	学士(工学)	1. 06 《1. 01》	平30		令和7年度入学定 員増(10人)
	第三類(応用化学・ 生物工学・化学工学 系)	4	115	3年次4	468	学士(工学)	1. 07 《1. 02》	平13		
	第四類(建設・環境 系)	4	90	3年次3	366	学士(工学)	1. 09 《1. 05》	平30		
	生物生産学部								広島県東広島市鏡山 一丁目4番4号	
	生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1. 07 《1. 04》 1. 07 《1. 04》	昭54		
	情報科学部								広島県東広島市鏡山 一丁目4番1号	
	情報科学科	4	180	3年次20	700	学士(情報科学)	1. 03 《1. 02》 1. 03 《1. 02》	平30		令和7年度入学定 員増(30人) 令和7年度編入学 定員増(15人)
	人間社会科学研究科								広島県東広島市鏡山 一丁目2番3号	
	人文社会科学専攻 (博士課程)	前期2	257 【15】	—	514 【30】	修士(文学) 修士(心理学) 修士(法学) 修士(経済学) 修士(ソーシャルデー タサイエンス) 修士(マネジメント)	1. 06	令和2		
		後期3	85 【3】	—	255 【9】	修士(経営学) 修士(国際協力学) 修士(学術) 博士(文学) 博士(心理学) 博士(法学) 博士(経済学) 博士(マネジメント) 博士(経営学) 博士(国際協力学) 博士(学術)	1. 11	令和2		
	教育科学専攻 (博士課程)	前期2	163	—	326	修士(教育学) 修士(教育心理学) 修士(教育データサイ エンス) 修士(国際協力学) 修士(学術)	1. 03	令和2	広島県東広島市鏡山 一丁目1番1号	

既設大学等の状況	教職開発専攻 (専門職学位課程) 実務法学専攻 (専門職学位課程) 広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻 (修士課程)	後期3	50	—	150	博士(教育学) 博士(国際協力学) 博士(学術) 教職修士(専門職)	1. 92	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号 広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号 広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	入学時期：10月
		専2	30	—	60		1. 06	令和2		
		専3	20	—	60	法務博士(専門職)	0. 86	令和2		
		修2	2	—	4	修士(学術)	2. 00	令和2		
	先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻 (博士課程)	前期2	483【13】	—	966【26】	修士(理学) 修士(工学) 修士(情報科学) 修士(国際協力学) 修士(学術)	1. 27	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号 広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	入学時期：10月
		後期3	128【7】	—	384【21】	博士(理学) 博士(工学) 博士(情報科学) 博士(国際協力学) 博士(学術)	1. 28	令和2		
		修2	2	—	4	修士(学術)	1. 25	令和2		
	統合生命科学研究科 統合生命科学専攻 (博士課程)	前期2	170【6】	—	340【12】	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術)	1. 13	平31	広島県東広島市鏡山一丁目4番4号 広島県東広島市鏡山一丁目3番1号 広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	
		後期3	70【6】	—	210【18】	博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	1. 12	平31		
	医系科学研究科 医歯薬学専攻 (博士課程) 総合健康科学専攻 (博士課程)	4	97	—	388	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	1. 40	平31	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
前期2		76【2】	—	152【4】	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学)	1. 26	平31			

					修士(保健学) 修士(口腔健康科学) 修士(学術) 博士(医科学) 博士(歯科学) 博士(薬科学) 博士(看護学) 博士(保健学) 博士(口腔健康科学) 博士(学術)	1. 81	平31		
スマートソサイエティ 実践科学研究院 (博士課程)	後期3	25 【1】	—	75 【3】					
	前期2	(36)	—	(72)	修士(学術)	—	令5	広島県東広島市鏡山 一丁目5番1号	※スマートソサイエティ実践科学研究院の入学定員及び収容定員は、人間社会科学研究科人文社会科学専攻、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻、統合生命科学研究科統合生命科学研究科統合生命科学研究科総合健康科学専攻の入学定員及び収容定員の内数。当該内数は【 】で示す。
	後期3	(17)	—	(51)	博士(学術) 博士(工学) 博士(情報科学) 博士(農学) 博士(保健学) 博士(医科学) 博士(経済学)	—	令5	広島県東広島市鏡山 一丁目4番1号 広島県東広島市鏡山 一丁目4番4号 広島県広島市南区霞 一丁目2番3号	
総合科学研究科 総合科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(学術)	—	平18	広島県東広島市鏡山 一丁目7番1号	令和2年度より学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(学術)	—	平18		
文学研究科 人文学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(文学)	—	平13	広島県東広島市鏡山 一丁目2番3号	令和2年度より学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(文学)	—	平13		
教育学研究科 教育学習科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平28	広島県東広島市鏡山 一丁目1番1号	令和2年度より学生募集停止
社会科学研究科 マネジメント専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(マネジメント)	—	平12	広島県広島市中区東 千田町一丁目1番89 号	令和2年度より学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(マネジメント)	—	平12		
理学研究科 物理科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28	広島県東広島市鏡山 一丁目3番1号	令和2年度より学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		

	数理分子生命理学専攻 （博士課程）	後期3	— —	— —	修士(理学) 博士(理学)	— —	平11 平11		平成31年度より 学生募集停止
	医歯薬保健学研究所 医歯薬学専攻 （博士課程） 保健学専攻 （博士課程）	4 前期2 後期3	— — — —	— — — —	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術) 修士(看護学) 修士(保健学) 博士(看護学) 博士(保健学)	— — — —	平24 平24 平24	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	平成31年度より 学生募集停止
	工学研究科 機械システム工学専攻 （博士課程）	前期2 後期3	— —	— —	修士(工学) 博士(工学)	— —	平22 平22	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	令和2年度より学 生募集停止
	国際協力研究科 開発科学専攻 （博士課程） 教育文化専攻 （博士課程）	前期2 後期3 前期2 後期3	— — — —	— — — —	修士(学術) 修士(工学) 修士(農学) 博士(学術) 博士(工学) 博士(農学) 修士(学術) 修士(教育学) 博士(学術) 博士(教育学)	— — — —	平6 平6 平7 平7	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	令和2年度より学 生募集停止
附属施設の概要									
原爆放射線医科学研究所 目的：原子爆弾その他の放射線による障害の治療及び予防に関する学理並びにその応用の研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和36年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡ 病院 目的：医学及び歯学に係る診療の場として機能するとともに、診療を通じて地域医療の向上に寄与すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和31年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物122,552㎡ 図書館 目的：図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を備え，これらの収集，整理及び提供を行うとともに，学術情報を提供すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号ほか 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)，建物26,967㎡ 経済学部附属地域経済システム研究センター 目的：中国・四国地方を中心とした地域の産業経済，企業経営，行財政システム等に関する理論的・実証的な調査・研究 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成元年5月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物3,163㎡ 理学部附属未来創生科学人材育成センター 目的：融合領域の研究と教育 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物34,461㎡ 薬学部附属薬用植物園 目的：薬用植物に関する研究									

	所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物298㎡
生物生産学部附属練習船豊潮丸	目的：乗船実習，海洋調査等 所在地：広島県呉市宝町7番4号 設置年月：昭和53年10月 規模等（基地）：土地2,675㎡，建物840㎡
人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設	目的：学際的・臨床的な観点からの幼年教育に関する理論的並びに実証的研究 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡
人間社会科学研究科附属教育実践総合センター	目的：学校教育の内容・方法に関する基礎的・理論的研究及び実践的研究の推進 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和63年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡
人間社会科学研究科附属心理臨床教育研究センター	目的：心理臨床に関する理論的・実践的研究の推進 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡
人間社会科学研究科附属リーガル・サービス・センター	目的：無料法律相談の実施等 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成17年4月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物53㎡
統合生命科学研究科附属植物遺伝子保管実験施設	目的：生物科学研究材料の系統保存等 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番3号 設置年月：昭和52年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物794㎡
医系科学研究科附属先駆的看護実践支援センター	目的：看護環境の向上および地域の人々への良質の看護の提供への貢献 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成18年6月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物84,633㎡
医系科学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター	目的：リハビリテーション環境の向上及び良質なリハビリテーションを地域に提供するための先駆的リハビリテーション実践能力を有するリハビリテーション従事者の養成並びに先駆的リハビリテーション実践を行うためのプロジェクト研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成21年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物120㎡
原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部	目的：原子爆弾及び放射線による被災に関する情報の調査並びにそれらの資料の収集，整理，保存及び解析 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡
持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所	目的：文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム(World Premier International Research Center Initiative)の持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点として，分子や原子などの自然界を構成する要素の人工類似体を開発し，自然界をより深く理解することにより，「キラルノット超物質」の研究パラダイムを確立するとともに，自然界には存在しない材料特性を持つ，新しいタイプの人工材料を自在に創成して，地球規模の問題を解決し，持続可能な未来を実現するための技術革新の基盤を構築すること 所在地：広島県東広島市鏡山2丁目313番地 設置年月：令和5年2月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
放射光科学研究所	目的：共同利用・共同研究拠点として，放射光科学に関する学術研究を行い，かつ，大学の教員その他の者との連携により放射光の利活用を拡大すること及び共同利用・共同研究を活かした人材育成を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山2丁目313番地 設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物3,881㎡
西条共同研修センター	目的：中国・四国地区国立大学法人の学生及び職員の合宿研修のための共同利用施設として，共同生活を通じて学生相互又は学生，職員間の人間関

	係を緊密にし、かつ、学生の課外活動を振興し、教養を高め、社会性を助長するとともに、地域社会における学術文化の発達に寄与すること 所在地：広島県東広島市西条町御園宇570 設置年月：昭和47年4月 規模等：土地111,469㎡、建物1,022㎡
	半導体産業技術研究所 目的：学内共同教育研究施設として、また共同利用・共同研究拠点として、半導体デバイス・集積回路技術の研究及びバイオ・医療技術との融合研究を行い、かつ、産学連携を推進し半導体産業技術に関係する研究開発と人材育成を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号 設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物4,153㎡
	高等教育研究開発センター 目的：学内共同教育研究施設として、国内外の大学・高等教育に関する基礎的・開発的研究の一体的推進を図るとともに、これらに係る業務を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号 設置年月：平成12年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,207㎡
	情報メディア教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、本学の情報通信基盤を支え、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び業務への支援を行い、情報メディア活用のための研究開発の推進を図ること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号 設置年月：平成13年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,507㎡
	森戸国際高等教育学院 目的：学内共同教育研究施設として、学内外における日本語・日本文化教育を充実させるとともに、海外との学生交流を推進し、グローバルキャンパス化の推進を図ること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成30年10月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,001㎡
	保健管理センター 目的：学内共同教育研究施設として、学生及び職員の身体的・精神的健康の管理を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号(ほか) 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡(ほか))、建物1,146㎡
	平和センター 目的：学内共同教育研究施設として、平和科学に関する研究・調査及び資料の収集を行うこと 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：昭和50年7月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物386㎡
	環境安全センター 目的：学内共同教育研究施設として、実験廃液の処理を含めた環境管理並びに学生及び職員の安全管理に関する専門的業務を行うとともに、環境及び安全に関する教育研究を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番3号 設置年月：平成17年3月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,374㎡
	総合博物館 目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うことにより、研究、教育及び社会貢献の推進に資すること (1) 本学に所蔵する学術標本資料の収集、調査、保存及び管理並びにその研究、展示及び情報発信に関すること (2) 学芸員等の人材育成に関すること (3) 本学構内の埋蔵文化財の発掘調査並びに調査資料の保存、管理及び公開に関すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成18年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物443㎡
	宇宙科学センター 目的：宇宙・天文の研究・教育を推進するとともに、大学共同利用機関法人自然科学研究機構等と連携し、全国の大学等との共同研究及び共同利用に供し、もって我が国の宇宙・天文の研究・教育、次世代を担う児童・生徒の科学教育及び生涯学習の推進に寄与すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号(ほか) 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡(ほか))、建物478㎡
	外国語教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、外国語教育に責任を持ち、学生の実践

	的コミュニケーション能力や外国語運用能力などの実力向上を図るとともに、外国語教育方法の研究開発と豊かな外国語教育の開発実施を通して、本学の学生及び職員に質の高い外国語学習の機会を提供し、もって国際的に活躍できる人材を育成すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,195㎡
文書館	目的：学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物783㎡
スポーツセンター	目的：学内共同教育研究施設として、スポーツに関する教育及び研究を行い、スポーツの振興を通じて、健全な心身と教養、豊かな人間性を備えた人材の育成に資すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成17年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物26㎡
両生類研究センター	目的：学内共同教育研究施設として、先端的な両生類研究を行うとともに、国際的なバイオリソースセンターとして両生類バイオリソースを維持するための技術の蓄積・継承及び高品質の両生類バイオリソースの提供を行うことにより、両生類研究者の育成・輩出、国内外の研究者に対する研究支援、国内外の共同研究及び両生類バイオリソースに関する国際的なネットワークの構築を促進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成28年10月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物3,886㎡
トランスレーショナルリサーチセンター	目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるシーズの開発及び管理と一元的なパイプラインの確立により関連機関と連携して橋渡し研究を推進するとともに、次世代の橋渡し研究を担う人材を育成すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成30年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)
防災・減災研究センター	目的：学内共同教育研究施設として、自然災害に関する学理の研究及び防災・減災に関する実践的研究を行うとともに、新たな防災対策・危機対応策を先導する学際研究の拠点を構築し、その成果を活かした総合的な防災まちづくりの推進及び人材育成を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号 設置年月：平成30年9月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
脳・こころ・感性科学研究センター	目的：学内共同教育研究施設として、人間の本質である“脳・こころ・感性”を、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など分野融合的に探求し、感性科学の学問体系を確立するとともに、その成果を教育、医療、ものづくり、ビジネスなどに社会実装し、一層の地域社会及び国際社会への貢献を行うこと 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成30年10月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)
ゲノム編集イノベーションセンター	目的：学内共同教育研究施設として、人類の様々な問題を解決することが期待されているゲノム編集の基礎分野及び応用分野の研究を進展させるとともに、産業界との連携によるゲノム編集技術開発を基盤とした新産業及びイノベーションの創出と新産業等創出に必要な人材を育成し、地域社会及び国際社会への貢献を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番23号 設置年月：平成31年2月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
デジタルものづくり教育研究センター	目的：学内共同教育研究施設として、地域において喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化に対応するため、モデルベースによる材料研究や制御・生産プロセスのスマート化などに係る研究開発と人材育成を幅広く推進するとともに、地域レベルで、イノベーションを実現していく本格的な産学連携システムを構築すること 所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番32号 設置年月：平成31年2月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
AI・データイノベーション教育研究センター	

	目的：学内外に向けたデータサイエンス教育の開発と普及，企業との連携による研究力の強化を推進すること 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：令和2年10月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)
	IDEC国際連携機構 目的：学内共同教育研究施設として，全学のグローバル化を先導しながら，Society5.0の国際展開により，国際貢献に資する実践研究と人材育成のための世界的な拠点を形成すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番1号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	A-ESG科学技術研究センター 目的：学内共同教育研究施設として，温室効果ガス排出による地球温暖化への対応や持続可能なエネルギーの創出に向けた研究開発と人材育成を幅広く推進し，環境・エネルギーに関する地球規模の課題解決に貢献すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	Town & Gown未来イノベーション研究所 目的：学内共同教育研究施設として，持続可能な社会の実現に向けた社会変革を先導する新たな地方創生モデルを構築するため，SDGsに貢献する技術的課題の研究とイノベーション創出，社会実装を加速させるEBPM・DX研究及び地域をフィールドに社会実装を実践する地方創生研究を進展させるとともに，イノベーション創出から社会実装までを実践するアントレプレナー人材を育成すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	PSI GMP教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として，国際的な規制に即したワクチンや医薬品の製造・品質管理の課題を解決するための高度な人材教育を行うとともに，本学独自の医系研究を進展させ，広島大学病院における臨床研究開発までの取組をシームレスに推進すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：令和4年10月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)
	ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 目的：学内共同教育研究施設として，インクルーシブマインドをもつ人材の育成・輩出と，ダイバーシティ×インクルージョン×アクセシビリティ理念の融合による新たなダイバーシティ&インクルージョン概念に基づく教育・研究を推進する教育研究拠点を形成し，国際展開すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号ほか 設置年月：令和5年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	瀬戸内CN国際共同研究センター 目的：学内共同教育研究施設として，瀬戸内圏の豊かな自然を生かし生物の多様性を守りつつ，カーボンニュートラルを推し進めて持続可能な発展を支えるために必要な教育研究を推進するとともに，里海・里山・島嶼環境という地域の特色を生かしながら世界的な環境問題の解決に貢献すること 所在地：広島県東広島市鏡山一丁目3番2号ほか 設置年月：令和5年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)，建物3,521㎡
	グローバルキャンパス推進機構 目的：学内共同教育研究施設として，グローバルキャンパスの拡大を推進するとともに，国内外の同窓生や民間企業等と連携した産学官協働により事業を展開し，新たな価値を創造することを推進し，海外共創を推進できる人材の育成及び海外共創に係る教育・研究を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山一丁目3番2号ほか 設置年月：令和6年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	未来創造人材教育機構 目的：学内共同教育研究施設として，自らのキャリアを主体的に切り拓き，未来の創造に持続的に貢献し続ける人材を育成するため，高等学校・大学・社会をシームレスに接続し多様な学習者のニーズに応じた学修機会の創出及び学習支援を行う先導的教育システムを構築し，国内外に展開すること 所在地：広島県東広島市鏡山一丁目7番1号 設置年月：令和7年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)
	酪農エコシステム技術開発センター 目的：学内共同教育研究施設として，国内農産物の輸出促進及び動物性タンパク質のカロリーベースでの自給率向上により日本の食料安全保障の実現に貢献するため，畜産・酪農分野における基礎研究から社会実装，社会変革まで見据えた研究を推進するとともに，食料供給の改善に寄与する人材育成を行うこと

	所在地：広島県東広島市鏡山2丁目2965番地 設置年月：令和7年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡) 海洋・海事未来研究所 目的：学内共同教育研究施設として、海洋ガバナンスに係る学際融合研究、海洋・海事に係る人材育成及び国際連携・産学官連携を推進することにより、アジアにおける新たな海洋・海事の教育研究拠点を形成し、地域社会及び国際社会への貢献を行うこと 所在地：広島県呉市宝町7番4号 設置年月：令和7年10月 規模等：建物840㎡ ハラスメント相談室 目的：学内共同利用施設として、職員、学生、生徒、児童及び園児が当事者となるハラスメントに関する相談を受け付け、及びハラスメントの防止を推進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号 設置年月：平成16年9月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物136㎡ 附属学校(幼稚園1、小学校3、中学校4、高等学校2) 目的：生徒、児童及び園児の心身の発達に応じて、教育とそれに伴う研究を行うとともに、本学における生徒等の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習の実施に当たること 所在地：広島県広島市南区翠1丁目1番1号ほか 設置年月：昭和26年4月ほか 規模等：土地(210,983㎡+附属幼稚園分6,919㎡)、建物54,375㎡	
--	---	--

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人広島大学 設置等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
広島大学				広島大学				
総合科学部				総合科学部				
総合科学科	120		480	総合科学科	120		480	
国際共創学科	40		160	国際共創学科	40		160	
文学部	3年次			文学部	3年次			
人文学科	130	10	540	人文学科	130	<u>5</u>	<u>530</u>	編入学定員変更(△5)
教育学部				教育学部				
第一類(学校教育系)	137		548	第一類(学校教育系)	137		548	
第二類(科学文化教育系)	82		328	第二類(科学文化教育系)	82		328	
第三類(言語文化教育系)	73		292	第三類(言語文化教育系)	73		292	
第四類(生涯活動教育系)	81		324	第四類(生涯活動教育系)	81		324	
第五類(人間形成基礎系)	52		208	第五類(人間形成基礎系)	52		208	
法学部	3年次			法学部	3年次			
法学科 昼間コース	140	5	570	法学科 昼間コース	140	5	570	
法学科 夜間主コース	30	5	130	法学科 夜間主コース	30	5	130	
経済学部	3年次			経済学部	3年次			
経済学科 昼間コース	150	5	610	経済学科 昼間コース	150	5	610	
経済学科 夜間主コース	45	0	180	経済学科 夜間主コース	45	0	180	
理学部	3年次			理学部	3年次			
数学科	47		188	数学科	47	<u>2</u>	<u>192</u>	編入学定員変更(2)
物理学科	66		264	物理学科	66	<u>2</u>	<u>268</u>	編入学定員変更(2)
化学科	59		236	化学科	59	<u>2</u>	<u>240</u>	編入学定員変更(2)
生物科学科	34		136	生物科学科	34		136	
地球惑星システム学科	24		96	地球惑星システム学科	24		96	
		10	20					編入学定員変更(△10)
医学部				医学部				
医学科	120		645	医学科	<u>105</u>		<u>630</u>	令和8年度までの臨時的な定員増(15人)終了。 *地域枠(13人)及び研究医枠(2人)
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
口腔健康科学科	40		160	口腔健康科学科	40		160	
薬学部				薬学部				
薬学科	38		228	薬学科	38		228	
薬科学科	22		88	薬科学科	22		88	
工学部	3年次			工学部	3年次			
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	
第二類(電気電子・システム情報系)	100	3	406	<u>第二類(半導体・電気システム情報系)</u>	100	<u>13</u>	<u>426</u>	編入学定員変更(10)
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	
第四類(建設・環境系)	90	3	366	第四類(建設・環境系)	90	3	366	
生物生産学部	3年次			生物生産学部	3年次			
生物生産学科	90	10	380	生物生産学科	90	<u>5</u>	<u>370</u>	編入学定員変更(△5)
情報科学部	3年次			情報科学部	3年次			
情報科学科	180	20	760	情報科学科	180	20	760	
	3年次				3年次			
	2,428	80	10,219		<u>2,413</u>	<u>76</u>	<u>10,196</u>	

広島大学大学院			
人間社会科学研究所			
人文社会科学専攻(M)	257	514	(※1)
	【15】	【30】	
人文社会科学専攻(D)	85	255	(※2)
	【3】	【9】	
教育科学専攻(M)	163	326	(※3)
教育科学専攻(D)	50	150	
教職開発専攻(P)	30	60	(※4)
実務法学専攻(P)	20	60	
広島大学・グラーツ大学国際連携 サステナビリティ学専攻(M)	2	4	(※5)
先進理工系科学研究科			
先進理工系科学専攻(M)	483	966	
	【13】	【26】	(※1)
先進理工系科学専攻(D)	128	384	(※2)
	【7】	【21】	
広島大学・ライプツィヒ大学国際 連携サステナビリティ学専攻(M)	2	4	広島大学・ライプツィヒ 大学国際連携サステ ィナビリティ学専攻 (R8.10 学生募集停止)
統合生命科学研究科			
統合生命科学専攻(M)	170	340	(※1)
	【6】	【12】	
統合生命科学専攻(D)	70	210	(※2)
	【6】	【18】	
医系科学研究科			
医歯薬学専攻(D)	97	388	(※3)
総合健康科学専攻(M)	76	152	
	【2】	【4】	(※4)
総合健康科学専攻(D)	25	75	
	【1】	【3】	(※2)
スマートソサイエティ実践科学研究院 (M)	(36)	(72)	(※1)
スマートソサイエティ実践科学研究院 (D)	(17)	(51)	(※2)
	1,658	3,888	
(※1)スマートソサイエティ実践科学研究院(M)の入学定員及び収容定員は、人間社会科学研究所人文 社会科学専攻(M)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(M)、統合生命科学研究科統合 生命科学専攻(M)、医系科学研究科総合健康科学専攻(M)の内数とする。 当該内数は【 】で示す。			
(※2)スマートソサイエティ実践科学研究院(D)の入学定員及び収容定員は、人間社会科学研究所人文 社会科学専攻(D)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(D)、統合生命科学研究科統合 生命科学専攻(D)、医系科学研究科総合健康科学専攻(D)の内数とする。 当該内数は【 】で示す。			



広島大学大学院			
<u>教育人文社会科学研究科</u>			
人文社会科学専攻(M)	257	514	
	【15】	【30】	(※1)
	【4】	【8】	(※3)
人文社会科学専攻(D)	77	231	入学定員変更(△8)
	【3】	【9】	(※2)
教育科学専攻(M)	163	326	
教育科学専攻(D)	58	174	入学定員変更(8)
教職開発専攻(P)	30	60	
実務法学専攻(P)	20	60	
広島大学・グラーツ大学国際連携 サステナビリティ学専攻(M)	2	4	
先進理工系科学研究科			
先進理工系科学専攻(M)	553	1106	入学定員変更(70)
	【13】	【26】	(※1)
	【7】	【14】	(※3)
先進理工系科学専攻(D)	128	384	
	【7】	【21】	(※2)
統合生命科学研究科			
統合生命科学専攻(M)	170	340	
	【6】	【12】	(※1)
	【4】	【8】	(※3)
統合生命科学専攻(D)	70	210	
	【6】	【18】	(※2)
医系科学研究科			
医歯薬学専攻(D)	97	388	
総合健康科学専攻(M)	76	152	
	【2】	【4】	(※1)
総合健康科学専攻(D)	25	75	
	【1】	【3】	(※2)
スマートソサイエティ実践科学研究院 (M)	(36)	(72)	(※1)
スマートソサイエティ実践科学研究院 (D)	(17)	(51)	(※2)
海洋・海事系実践科学研究院(M)	(15)	(30)	(※3)
	1,726	4,024	
(※1)スマートソサイエティ実践科学研究院(M)の入学定員及び収容定員は、教育人文社会科学研究科 人文社会科学専攻(M)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(M)、統合生命科学研究科 統合生命科学専攻(M)、医系科学研究科総合健康科学専攻(M)の内数とする。 当該内数は【 】で示す。			
(※2)スマートソサイエティ実践科学研究院(D)の入学定員及び収容定員は、教育人文社会科学研究科 人文社会科学専攻(D)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(D)、統合生命科学研究科 統合生命科学専攻(D)、医系科学研究科総合健康科学専攻(D)の内数とする。 当該内数は【 】で示す。			
(※3)海洋・海事系実践科学研究院(M)の入学定員及び収容定員は、教育人文社会科学研究科 人文社会科学専攻(M)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(M)、統合生命科学研究科 統合生命科学専攻(M)の内数とする。 当該内数は【 】で示す。			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(海洋・海事系実践科学研究所修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く）教員	
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える			1		○								5	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development・Economy, Infrastructure, and Peace			1		○			2					3	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development・Culture, Education, and Health			1		○			1					6	オムニバス・共同（一部）
		SDGsへの学問的アプローチA			1		○								7	オムニバス・共同（一部）
		SDGsへの学問的アプローチB			1		○			2					5	オムニバス
		SDGsへの実践的アプローチ			1			○							3	オムニバス
		ダイバーシティの理解			1		○								2	共同
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える・被爆者の経験記をもとに・			1		○								1	
		Climate Change Adaptation and Mitigation			1		○								1	
		Innovation and Practice for Smart Society			1		○								8	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー			1		○			1					4	
		医療情報リテラシー			1		○								8	オムニバス・共同（一部）
		キャリアマネジメント特論			2		○								2	
		ストレスマネジメント			2		○								2	
		MOT入門			1		○								1	
		情報セキュリティ			1		○			1					4	オムニバス・共同（一部）
		アントレプレナーシップ概論			1		○								1	
		情報科学概論I			1		○								1	
		情報科学概論II			1		○								1	
		理系基礎研究者養成概論			1		○								1	
		留学生のためのキャリアマネジメント講座A			1		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		留学生のためのキャリアマネジメント講座B			1		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		長期インターンシップ			2			○							1	
		半導体キャリア開発			1		○								1	
	小計（24科目）		—		0	27	0	—			3	0	0	0	0	60

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
基礎モジュール科目	海洋政策・海洋ガバナンス領域	International Relations	1・2②		2		○								1	
		Law and Human Rights	1・2②		2		○			1						
		International Law I	1・2①		2		○				1					
		International Law II	1・2②		2		○				1					
		Introduction to Maritime Security	1・2③		2		○				1					
		Law of the Sea	1・2③		2		○				1					
		Public Economics	1・2③		2		○								1	
		Development Microeconomics I	1・2③		2		○								1	
		Development Microeconomics II	1・2④		2		○								1	
		Urban Policy	1・2④		2		○								1	
		Management of Technology	1・2④		2		○			1						
		Maritime Industry	1・2④		2		○						1			
		The Ocean and the economy	1・2①		2		○						1			
	海洋利用技術領域	Material Joining Process	1・2②		2		○			1						
		System Planning	1・2③		2		○			1						
		Advanced Computational Fluid Dynamics in Maritime and Ocean and Engineering	1・2①		2		○			1						
		Advanced Ocean Remote Sensing Engineering	1・2②		2		○			1						
		Advanced Instrumentation and Control for Structures	1・2③		2		○				1					
		Advanced Aerodynamics	1・2③		2		○				1					
		Advanced Strength of Material	1・2④		2		○				1					
		Observational Physical Oceanography	1・2④		2		○				1					
		Ocean Remote Monitoring	1・2①		2		○			1						
		Weather Routing and Vessel Performance Monitoring	1・2②		2		○				1					
	海洋環境・海洋資源領域	Sustainable Production of Fisheries Resources	1・2④		2		○								1	
		Fisheries Oceanography	1・2②		2		○			1					3	オムニバス
		Biological Oceanography	1・2④		2		○			1					3	オムニバス
		Fisheries Biology	1・2①		2		○			1						
		Aquatic Ecology	1・2①		2		○				1				1	オムニバス
		Aquatic Zoophysiology	1・2②		2		○				1				1	オムニバス
		小計（29科目）	—		0	58	0	—		9	11	0	1	0	10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
専門モジュール科目	科共通	Evidence-Based Decision Making	1・2③		2		○								2	共同
		Research Method	1・2①		2		○								1	
	海洋政策・海洋ガバナンス領域	International Criminal Law	1・2③		2		○								1	隔年
		International Security I	1・2①		2		○				1					
		International Security II	1・2②		2		○				1					
		Development Macroeconomics	1・2③		2		○								1	
		The Political Economy of Global Power	1・2④		2		○								1	
		Foundations of Maritime Security Policy Making	1・2④		2		○				1					
		Remote Sensing for Social Sciences	1・2④		2		○								1	※演習
		International Maritime Order・Ocean governance and sustainable blue economies	1・2①		2		○								1	
		Maritime Safety and Security Policies	1・2②		2		○								1	
		Maritime Security : Law and Policy	1・2③		2		○								4	オムニバス
		International Law and International Organization	1・2④		2		○								1	
	海洋利用技術領域	Advanced Energy Plant	1・2④		2		○								2	オムニバス
		Advanced Structural Concrete	1・2②		2		○								2	オムニバス
		Environmental Fluid Mechanics	1・2③		2		○			1						
		Mechanical Engineering Design	1・2④		2		○			1						
		Control System Design	1・2④		2		○			1						
		Strength and Fracture of Metals	1・2③		2		○			1						
		Laser Material Processing	1・2④		2		○			1						
		Optimization of Structural and Process Design	1・2③		2		○				1					
		Infrastructure and Regional Planning	1・2①		2		○								1	
		Transportation Planning	1・2②		2		○								1	
		Advanced Marine Information Engineering	1・2①		2		○			3					3	オムニバス
		Introduction of Ship Operation	1・2②		2		○								4	オムニバス
	海洋環境・海洋資源領域	Fish Biology and Ecology	1・2③		2		○								1	
		Atmospheric Hydrospheric Chemistry (Maritime)	1・2④		2		○								2	オムニバス・共同（一部）
		Sustainable Marine Environment	1・2③		1		○			1						
		Earth Materials	1・2②		2		○				1				1	オムニバス
		Dynamics of Earth Surface Material Cycle	1・2②		2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		Water Security	1・2④		1		○								1	
		Energy Science and Technology	1・2①		2		○								1	
		Advanced Environmental Chemistry Engineering	1・2①		2		○			1						
		Geotechnical Engineering	1・2②		2		○			1						
		Basic Oceanography and Hydrography	1・2①		2		○								3	オムニバス
		小計（35科目）	—		0	68	0	—		12	4	0	0	0	36	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助 任教 員を 除く の 教員	
実践モジュール科目	Internship	1・2前後			4				○	1						
	Fieldwork	1・2前後			4				○	1						
	Project Management	1・2後			4		○			1						
	Young Professionals Preparing for Careers in International Organizations	1・2後			2			○							1	
	Developing Designing Ability	1・2前			2			○							2	※履修、オムニパス・共同（一部）
	小計（5科目）	－		0	16	0	－			1	0	0	0	0	3	
修士論文モジュール科目	Seminar on Master Thesis	1～2		4				○		18	14		1			
	小計（1科目）	－		4	0	0	－			18	14	0		0		
合計（94科目）		－		4	169	0	－			18	14	0	1	0	102	
学位又は称号	修士（海洋・海事科学）			学位又は学科の分野					法学関係 経済学関係 理学関係 工学関係 農学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 【修了要件】 科目区分 大学院共通科目／持続可能な発展科目 ／キャリア開発・データリテラシー科目 基礎モジュール科目（自領域から） 専門モジュール科目（共通科目から） 専門モジュール科目（自領域から） 他領域の基礎モジュール科目又は専門モジュール科目 実践モジュール科目 修士論文モジュール科目 合 計 要修得単位数 1単位以上（選択必修） 1単位以上（選択必修） 4単位以上（選択必修） 2単位以上（選択必修） 8単位以上（選択必修） 6単位以上（選択必修） 4単位以上（選択必修） 4単位（必修） 30単位以上 （備考） 他領域の基礎モジュール科目又は専門モジュール科目の履修にあたっては、自領域とは異なる2つの領域それぞれから2単位以上を必ず履修すること。									1 学年の学期区分				2学期（4ターム）			
									1 学期の授業期間				15週			
									1 時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要																
（人間社会科学研究科人文社会科学専攻（博士課程前期））【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員	
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2④			1		○			1	1				3	オムニバス
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②			1		○			2	1				2	オムニバス
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④			1		○			2					5	オムニバス・共同（一部）
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②			1		○								7	オムニバス・共同（一部）
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2②			1		○			1					6	オムニバス
	SDGsへの実践的アプローチ	1・2後			1			○							3	オムニバス
	ダイバーシティの理解	1・2前			1		○				1				1	共同
	原爆文学、芸術を通して「平和」を考える	1・2④			1		○								1	
	ー被爆者の経験記をもとにー Climate Change Adaptation and Mitigation Innovation and Practice for Smart Society	1・2③			1		○			1						
		1・2後			1		○				2				6	オムニバス
	データリテラシー	1・2②③④			1		○								4	
	医療情報リテラシー	1・2③			1		○								8	オムニバス・共同（一部）
	キャリアマネジメント特論	1・2前③			2		○								2	
	ストレスマネジメント	1・2前			2		○								2	
	MOT入門	1・2前後①			1		○								1	
	情報セキュリティ	1・2前			1		○								4	オムニバス・共同（一部）
	アントレプレナーシップ概論	1・2後			1		○								1	
	情報科学概論Ⅰ	1・2②			1		○								1	
	情報科学概論Ⅱ	1・2④			1		○									
研究科 共通科目	理系基礎研究者養成概論	1・2後			1		○									
	留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2①			1		○			2						オムニバス・共同（一部）
	留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2③			1		○			2						オムニバス・共同（一部）
	長期インターンシップ	1・2前後			2			○							1	
	半導体キャリア開発	1・2後			1		○								1	
	小計（24科目）	—		0	27	0	—			6	4	0	0	0	53	
	人間社会科学特別講義	1①②			1		○			15	6	1	3		5	オムニバス
	人間社会科学のための科学史	1・2②③			1		○			10	8		6		8	オムニバス
	ルール形成のための国際標準化	1・2②			1		○								1	集中
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1前			2		○								3	共同
	データビジュアライゼーションA	1・2前後			1		○								2	集中
	データビジュアライゼーションB	1・2前後			1		○								2	集中
	環境原論A	1・2後			1		○								1	集中
	環境原論B	1・2後			1		○								1	集中
	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①			1		○			6	8	1				オムニバス
	人文社会科学と社会	1・2②③			1		○			17	9		3		1	オムニバス
研究科 共通科目	リサーチメソッド	1①④			2		○				1		1			
	教育科学のための研究法と倫理	1・2①			1		○								22	オムニバス
	教育科学と社会	1・2②			1		○								23	オムニバス
	Religious culture in public education	1・2③			2		○								1	
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③			2		○								1	
	日本の教育開発経験	1・2③			2		○								8	
	小計（16科目）	—		0	21	0	—			39	31	2	10	0	73	
	比較日本文学文化研究A	1・2前			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
	比較日本文化学研究B	1・2後			2			○							1	
	比較日本文化学研究C	1・2前			2			○							1	
	比較日本文化学研究D	1・2後			2			○							1	
	日本文化論講義A	1・2前			2		○						1			
	日本文化論講義B	1・2後			2		○						1			
	日本文化論演習A	1・2前			2			○					1			
	日本文化論演習B	1・2後			2			○					1			
	歴史文化論講義A	1・2前			2		○			1						
	歴史文化論講義B	1・2後			2		○			1						
	歴史文化論演習A	1・2前			2			○		1						
	歴史文化論演習B	1・2後			2			○		1						
	表象文化論講義A	1・2前			2		※	○							1	※講義
	表象文化論講義B	1・2後			2		※	○		1						※講義
	表象文化論演習A	1・2前			2			○		1						
	表象文化論演習B	1・2後			2			○		1						
	言語文化論講義A	1・2前			2		○								1	
	言語文化論講義B	1・2後			2		○								1	
	言語文化論演習A	1・2前			2			○							1	
	言語文化論演習B	1・2後			2			○							1	
	超域文化論講義A	1・2①			2		○				1					
	超域文化論講義B	1・2③			2		○				1					
	超域文化論演習A	1・2②			2			○			1					
	超域文化論演習B	1・2④			2			○			1					
	漢字文化論講義A	1・2前			2		○				1					
	漢字文化論講義B	1・2後			2		○				1					
	漢字文化論演習A	1・2前			2			○							1	
	漢字文化論演習B	1・2後			2			○							1	
	西洋哲学演習A	1・2②			2			○			1					
	西洋哲学演習B	1・2③			2			○			1					
	西洋哲学特別演習A	1・2①			2			○							1	
	西洋哲学特別演習B	1・2②			2			○							1	
	西洋哲学史演習A	1・2③			2			○			1					
	西洋哲学史演習B	1・2④			2			○			1					
	西洋哲学史特別演習A	1・2③			2			○							1	
	西洋哲学史特別演習B	1・2④			2			○							1	
	西洋哲学特講	1・2前			2		○								1	
	インド哲学史演習A	1・2前			2			○		1						
	インド哲学史演習B	1・2後			2			○		1						
	仏教学研究	1・2後			2			○		1						
	仏教思想史研究	1・2前			2			○		1						
	仏教学演習A	1・2前			2			○		1						
	仏教学演習B	1・2後			2			○		1						
	仏教思想史講義A	1・2前			2		○				1					
	仏教思想史講義B	1・2後			2		○				1					
	インド哲学仏教学総合演習A	1・2前			2			○		1	1					共同
	インド哲学仏教学総合演習B	1・2後			2			○		1	1					共同
	倫理学基礎演習A	1・2前			2			○			1					
	倫理学基礎演習B	1・2前			2			○			1					
	応用倫理学方法論研究A	1・2後			2			○			1					
	応用倫理学方法論研究B	1・2後			2			○			1					
	応用倫理学基礎演習A	1・2前			2			○					1			
	応用倫理学基礎演習B	1・2前			2			○					1			
	応用倫理学文献研究A	1・2後			2			○					1			
	応用倫理学文献研究B	1・2後			2			○					1			
	倫理思想史基礎演習A	1・2後			2			○							1	
	倫理思想史基礎演習B	1・2後			2			○							1	
	倫理思想史文献研究A	1・2③			2			○		1						
	倫理思想史文献研究B	1・2③			2			○		1						
	応用倫理思想基礎演習A	1・2②			2			○		1						
	応用倫理思想基礎演習B	1・2②			2			○		1						
	中国思想文献研究A	1・2前			2			○		1						
	中国思想文献研究B	1・2後			2			○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要 (人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】	
---	--

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員	
	中国思想文献研究C	1・2前			2			○		1						
	中国思想文献研究D	1・2後			2			○		1						
	中国文化文献研究A	1・2前			2			○			1					
	中国文化文献研究B	1・2後			2			○			1					
	中国文化文献研究C	1・2前			2			○			1					
	中国文化文献研究D	1・2後			2			○			1					
	中国思想学專題講義	1・2③			2		○			1						隔年
	中国文化学專題研究	1・2④			2			○							1	隔年
	中国思想文化学研究法A	1・2前			2			○		1	1					共同
	中国思想文化学研究法B	1・2後			2			○		1	1					共同
	中国思想文化学研究法C	1・2前			2			○		1	1					共同
	中国思想文化学研究法D	1・2後			2			○		1	1					共同
	日本地域文献資料実習	1・2前			1				○				2			隔年・共同
	日本地域史研究実習	1・2後			1				○				2			隔年・共同
	日本中世資料解析論A	1・2後			2			○							1	隔年
	日本中世資料解析論B	1・2後			2			○					1			隔年
	日本中世社会文化研究A	1・2前			2			○							1	隔年
	日本中世社会文化研究B	1・2前			2			○					1			隔年
	日本近世資料解析論A	1・2前			2			○					1			隔年
	日本近世資料解析論B	1・2前			2			○					1			隔年
	日本近世社会文化研究A	1・2後			2			○					1			隔年
	日本近世社会文化研究B	1・2後			2			○					1			隔年
	日本近代資料解析論A	1・2後			2			○							1	隔年
	日本近代資料解析論B	1・2後			2			○							1	隔年
	日本近代社会文化研究A	1・2前			2			○							1	隔年
	日本近代社会文化研究B	1・2前			2			○							1	隔年
	日本社会文化史特論	1・2②			2			○							1	隔年
	アジア歴史文化論A	1・2①			2		○				1					隔年
	アジア歴史文化論B	1・2③			2		○				1					隔年
	アジア社会史史料研究A	1・2①			2			○			1					隔年
	アジア社会史史料研究B	1・2③			2			○			1					隔年
	アジア政治史史料研究A	1・2②			2			○			1					隔年
	アジア政治史史料研究B	1・2④			2			○			1					隔年
	アジア地域史研究A	1・2①			2		○								1	隔年
	アジア地域史研究B	1・2③			2		○					1				隔年
	アジア地域文化論A	1・2①			2		※	○			1					※講義・隔年
	アジア地域文化論B	1・2③			2		※	○			1					※講義・隔年
	アジア交流史史料研究A	1・2②			2			○			1					隔年
	アジア交流史史料研究B	1・2④			2			○			1					隔年
	中国制度史史料講義A	1・2②			2		※	○			1					※講義・隔年
	中国制度史史料講義B	1・2④			2		※	○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
人文学プログラム	日本古典文学注釈研究D	1・2後			2		※	○							1	※講義・隔年
	日本古典文学解読研究A	1・2前			2			○			1					隔年
	日本古典文学解読研究B	1・2後			2			○			1					隔年
	日本古典文学解読研究C	1・2前			2			○		1	1					隔年
	日本古典文学解読研究D	1・2後			2			○							1	隔年
	日本近現代文学注釈研究A	1・2前			2			○					1			隔年
	日本近現代文学注釈研究B	1・2後			2			○					1			隔年
	日本近現代文学注釈研究C	1・2前			2			○		1						隔年
	日本近現代文学注釈研究D	1・2後			2			○		1						隔年
	日本近現代文学解読研究A	1・2前			2			○					1			隔年
	日本近現代文学解読研究B	1・2後			2			○					1			隔年
	日本近現代文学解読研究C	1・2前			2			○		1						隔年
	日本近現代文学解読研究D	1・2後			2			○		1						隔年
	日本語学研究A	1・2前			2			○		1						隔年
	日本語学研究B	1・2後			2			○		1						隔年
	日本語史研究A	1・2前			2			○		1						隔年
	日本語史研究B	1・2後			2			○		1						隔年
	中国古典散文演習A	1・2前			2			○							1	
	中国古典散文演習B	1・2後			2			○							1	
	中国古典散文演習C	1・2前			2			○							1	
	中国古典散文演習D	1・2後			2			○							1	
	中国古典韻文演習A	1・2前			2			○							1	
	中国古典韻文演習B	1・2後			2			○							1	
	中国古典韻文演習C	1・2前			2			○							1	
	中国古典韻文演習D	1・2後			2			○							1	
	中国古典詩演習A	1・2前			2			○							1	
	中国古典詩演習B	1・2後			2			○							1	
	中国古典詩演習C	1・2前			2			○							1	
	中国古典詩演習D	1・2後			2			○							1	
	中国古典小説演習A	1・2前			2			○		1						
	中国古典小説演習B	1・2後			2			○		1						
	中国古典小説演習C	1・2前			2			○		1						
	中国古典小説演習D	1・2後			2			○		1						
	中国文学特殊講義A	1・2前			2		○								1	隔年
	中国文学特殊講義B	1・2前			2		○								1	隔年
	近代アメリカ文学演習A	1・2①			2			○		1						
	近代アメリカ文学演習B	1・2①			2			○		1						
	現代アメリカ文学演習A	1・2②			2			○			1					
	現代アメリカ文学演習B	1・2②			2			○			1					
	アメリカ文学理論演習A	1・2④			2			○				1				
	アメリカ文学理論演習B	1・2④			2			○				1				
	アメリカ小説作品演習A	1・2③			2			○		1						
	アメリカ小説作品演習B	1・2③			2			○		1						
	アメリカ文学特殊講義A	1・2前			2		○	※		1	1					※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2前			2		○	※							1	※演習
	アメリカ文学研究演習A	1・2後			2			○		1	1					
	アメリカ文学研究演習B	1・2後			2			○		1	1					
	批評理論演習A	1・2前			2			○							1	隔年
	批評理論演習B	1・2後			2			○							1	隔年
	イギリス詩文学作品演習A	1・2④			2			○					1			
	イギリス詩文学作品演習B	1・2前			2			○							1	
	イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④			2			○							1	
	イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④			2			○							1	
	イギリス小説作品研究演習A	1・2②			2			○							1	
	イギリス小説作品研究演習B	1・2②			2			○							1	
	イギリス小説作品演習A	1・2①			2			○							1	
	イギリス小説作品演習B	1・2①			2			○							1	
	イギリス戯曲文学演習A	1・2前			2			○							1	
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③			2			○							1	
	イギリス戯曲文学演習C	1・2②			2			○							1	
	イギリス戯曲文学演習D	1・2③			2			○							1	
	英語圏文学概論A	1・2④			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
	英語圏文学概論B	1・2④			2			○							1	
	英語圏文学特殊講義A	1・2①			2		○								1	共同
	英語圏文学特殊講義B	1・2②			2		○								1	共同
	世界英語圏文学批評演習A	1・2④			2			○		1						
	世界英語圏文学批評演習B	1・2後			2			○		1						
	英語圏文学作品演習A	1・2②			2			○		1						
	英語圏文学作品演習B	1・2②			2			○		1						
	英語圏文学作品研究演習A	1・2①			2			○		1						
	英語圏文学作品研究演習B	1・2①			2			○		1						
	英語圏詩文学作品演習A	1・2③			2			○		1						
	英語圏詩文学作品演習B	1・2③			2			○		1						
	英語学概論A	1・2①			2		○			2						隔年・共同
	英語学概論B	1・2③			2		○			2						隔年・共同
	英語学概論C	1・2①			2		○			2						隔年・共同
	英語学概論D	1・2③			2		○			2						隔年・共同
	英語学理論演習A	1・2①			2			○		1						隔年
	英語学理論演習B	1・2①			2			○		1						隔年
	近代英語作品研究演習A	1・2③			2			○		1						隔年
	近代英語作品研究演習B	1・2③			2			○		1						隔年
	中期英語概論A	1・2②			2		○			1						隔年
	中期英語概論B	1・2②			2		○			1						隔年
	中期英語作品研究演習A	1・2④			2			○		1						隔年
	中期英語作品研究演習B	1・2④			2			○		1						隔年
	英語学特殊講義A	1・2②			2		○			2						隔年・共同
	英語学特殊講義B	1・2④			2		○			2						隔年・共同
	英語学特殊講義C	1・2②			2		○			2						隔年・共同
	英語学特殊講義D	1・2④			2		○			2						隔年・共同
	ドイツ文学理論演習A	1・2後			2			○							1	隔年
	ドイツ文学理論演習B	1・2後			2			○							1	隔年
	近現代ドイツ語学演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	近現代ドイツ語学演習B	1・2後			2			○			1					隔年
	ドイツ文学語学特殊講義A	1・2前			2		○								1	隔年
	ドイツ文学語学特殊講義B	1・2前			2		○								1	隔年
	ドイツ語圏文化論演習A	1・2後			2			○							1	隔年
	ドイツ語圏文化論演習B	1・2後			2			○							1	隔年
	ドイツ語圏言語文化演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習B	1・2後			2			○			1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習C	1・2前			2			○			1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習D	1・2後			2			○			1					隔年
	ドイツ文学発展演習A	1・2前			2			○							1	隔年
	ドイツ文学発展演習B	1・2前			2			○							1	隔年
	ドイツ近現代文学演習A	1・2前			2			○							1	隔年
	ドイツ近現代文学演習B	1・2後			2			○							1	隔年
	ドイツ語コーパス言語学A	1・2前			2		○				1					隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	1・2後			2		○				1					隔年
	フランス語文学研究A	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語文学研究B	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語文学批評研究A	1・2前			2			○		1						隔年
	フランス語文学批評研究B	1・2前			2			○		1						隔年
	フランス語文学・フランス語学演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学演習B	1・2前			2			○			1					隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習A	1・2前			2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習B	1・2前			2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学批評演習A	1・2後			2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学批評演習B	1・2後			2			○		1						隔年
	近現代フランス語表現小説研究A	1・2後			2			○		1						隔年
	近現代フランス語表現小説研究B	1・2後			2			○		1						隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習B	1・2前			2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習C	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習D	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習A	1・2前			2			○			1					隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					専任(助手を除く)教員	備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	フランス語圏文化論演習B	1・2前			2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習C	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習D	1・2後			2			○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義A	1・2前			2		○								1	隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義B	1・2前			2		○								1	隔年
	言語情報学演習A	1・2前			2		※	○							1	※講義・隔年・共同
	言語情報学演習B	1・2前			2		※	○		1						※講義・隔年・共同
	言語情報学特別演習A	1・2後			2		※	○							1	※講義・隔年・共同
	言語情報学特別演習B	1・2後			2		※	○		1						※講義・隔年・共同
	一般言語学演習A	1・2前			2		※	○		1						※講義・隔年
	一般言語学演習B	1・2前			2		※	○		1						※講義・隔年
	一般言語学特別演習A	1・2後			2		※	○		1						※講義・隔年
	一般言語学特別演習B	1・2後			2		※	○		1						※講義・隔年
	一般・応用言語学演習A	1・2前			2		※	○							1	※講義・隔年
	一般・応用言語学演習B	1・2後			2		※	○							1	※講義・隔年
	一般・応用言語学特別演習A	1・2後			2		※	○							1	※講義・隔年
	一般・応用言語学特別演習B	1・2前			2		※	○							1	※講義・隔年
	歴史言語学演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	歴史言語学演習B	1・2前			2			○			1					隔年
	歴史言語学特別演習A	1・2後			2			○			1					隔年
	歴史言語学特別演習B	1・2後			2			○			1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義	1・2前			2		○			1						隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習	1・2前			2			○		1						隔年
	人文地理学特別講義	1・2前			2		○								1	隔年
	人文地理学基礎論演習A	1・2前			2			○			1					隔年
	人文地理学基礎論演習B	1・2前			2			○			1					隔年
	人文地理学特論演習A	1・2前			2			○		1						隔年
	人文地理学特論演習B	1・2前			2			○		1						隔年
	世界地域システム論演習A	1・2後			2			○			1					隔年
	世界地域システム論演習B	1・2後			2			○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習A	1・2後			2			○		1						隔年
	グローバル経済地域論演習B	1・2後			2			○		1						隔年
	経済地理学研究	1・2前			2		○	※		1						※演習・隔年
	農村地理学研究	1・2後			2		○	※			1					※演習・隔年
	自然地理学特別講義	1・2前			2		○								1	隔年
	自然地理学基礎論演習A	1・2前			2			○		1						隔年
	自然地理学基礎論演習B	1・2後			2			○		1					2	隔年
	地表変動論演習A	1・2後			2			○		1						
	地表変動論演習B	1・2後			2			○		1					1	
	地表変動論研究A	1・2後			2			○		1					1	
	地表変動論研究B	1・2後			2			○							2	
	地表変動論研究C	1・2前			2			○		1						
	地表変動論研究D	1・2前			2			○		1					2	
	地表変動論研究E	1・2休			2			○							1	
	地表変動論研究F	1・2後			2			○							2	
	地理情報システム学講義	1・2②			2		○			1						隔年
	地理情報システム学演習	1・2④			2			○		1						隔年
	地理学研究法A	1・2前			2			○		2	1					隔年・共同
	地理学研究法B	1・2後			2			○		2	1					隔年・共同
	地理学研究法C	1・2前			2			○		2	1					隔年・共同
	地理学研究法D	1・2後			2			○		2	1					隔年・共同
	地理学野外実験	1・2前			1				○	2	1					共同
	地理学野外演習	1・2後			2			○		2	1					共同
	日本考古学解析A	1・2前			2			○			1					隔年
	日本考古学解析B	1・2前			2			○			1					隔年
	アジア考古学解析	1・2後			2		○								1	隔年
	日本考古学特論	1・2後			2		○								1	隔年
	世界考古学解析A	1・2後			2			○			1					隔年
	世界考古学解析B	1・2後			2			○			1					隔年
	考古学広領域講義	1・2④			2		○								1	隔年
	考古文献評論A	1・2②			2			○			1					隔年
	考古文献評論B	1・2②			2			○			1					隔年

教 育 課 程 等 の 概 要 (人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員		
	考古資料評論	1・2③			2			○			1						
	アジア比較考古学演習 A	1・2後			2			○		1							隔年・共同
	アジア比較考古学演習 B	1・2後			2			○		1							隔年
	考古学資料実習 A	1・2前			1				○	1	2						隔年・共同
	考古学資料実習 B	1・2後			1				○	1	2						共同
	考古学資料実習 C	1・2前			1				○	1	2						隔年・共同
	総合文化財研究法Ⅰ	1・2後			2			○			1						隔年
	総合文化財研究法Ⅱ	1・2後			2			○			1						隔年
	総合文化財調査実習Ⅰ	1・2前			1				○		1						隔年
	総合文化財調査実習Ⅱ	1・2後			1				○		1						隔年
	総合文化財解析演習Ⅰ	1・2前			2			○			1						隔年
	総合文化財解析演習Ⅱ	1・2後			2			○			1						隔年
	有形文化財研究法Ⅰ	1・2①			2			○						1			隔年
	有形文化財調査実習Ⅰ	1・2前			1				○					1			隔年
	有形文化財調査実習Ⅱ	1・2後			1				○					1			隔年
	地域文化財研究法Ⅰ	1・2①			2			○			1						隔年
	地域文化財研究法Ⅱ	1・2①			2			○			1						隔年
	地域文化財解析演習Ⅰ	1・2①			2			○			1						隔年
	地域文化財解析演習Ⅱ	1・2③			2			○			1						隔年
	地域文化財調査実習Ⅰ	1・2①			1				○		1						隔年
	地域文化財調査実習Ⅱ	1・2③			1				○		1						隔年
	文化財学特殊講義Ⅰ	1・2後			2		○								1		隔年
	文化財学特殊講義Ⅱ	1・2前			2		○								1		隔年
	小計（334科目）				0	656	0	－			19	20	0	7	0	42	
プログラム専門科目	心理学研究法基礎演習A	1・2②			1			○		6	3	1	3				
	心理学研究法基礎演習B	1・2④			1			○		6	3	1	3				
	心理学研究法応用演習A	2②			1			○		6	3	1	3				
	心理学研究法応用演習B	2④			1			○		6	3	1	3				
	Academic writing in psychology A	1・2①			1		○			6	3	1	3				
	Academic writing in psychology B	1・2③			1		○			6	3	1	3		1		
	Advanced academic writing in psychology A	2①			1		○			6	3	1	3				
	Advanced academic writing in psychology B	2③			1		○			6	3	1	3		1		
	臨床心理学特講Ⅰ	1・2①			2		○			2	3						
	心理学特講A	1・2前			2		○			1					1		
	心理学特講B	1・2後			2		○			1					1		
	心理学特講C	1・2前			2		○			6	3	1	3				
	心理学特講D	1・2後			2		○			6	3	1	3				
	心理学基礎演習Ⅰ	1・2①			2			○		6	3	1	3				
	心理学基礎演習Ⅱ	1・2②			2			○		6	3	1	3				
	心理学基礎演習Ⅲ	1・2③			2			○		6	3	1	3				
	心理学基礎演習Ⅳ	1・2④			2			○		6	3	1	3				
	心理学応用演習Ⅰ	2①			2			○		6	3	1	3				
	心理学応用演習Ⅱ	2②			2			○		6	3	1	3				
	心理学応用演習Ⅲ	2③			2			○		6	3	1	3				
	心理学応用演習Ⅳ	2④			2			○		6	3	1	3				
	幼児心理学観察演習	1・2前			1			○		1	1						
	臨床心理学特講Ⅱ	1・2後			2		○			1							
	心理療法特講	2①			2		○			2	1						
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2③			2		○			1								
心の健康教育に関する理論と実践	1・2前			2		○			1								
臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1・2後			2		○				1				1			
臨床心理面接特講Ⅱ	2後			2		○				1				1			
教育分野に関する理論と支援の展開	1・2通			2		○			2	2							
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2後			2		○								1			
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2前			2		○								1			
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前			2		○								1			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻（博士課程前期））【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く）教員	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前			2		○								1	
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1・2②		2			○			1						
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2③		2			○		1	1						
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1・2前		1				○	1	1						
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1・2後		1				○	1	1						
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅳ）	2前		1				○	3	3						
	臨床心理実習Ⅱ	2後		1				○	3	3						
	心理実践実習Ⅰ	1・2通		1				○	3	3						
	心理実践実習Ⅱ	1・2通		1				○	3	3						
	心理実践実習Ⅲ	2通		1				○	3	3						
	心理実践実習Ⅴ	2通		1				○	3	3						
	心理実践実習A	1・2通		1				○	1				1			
	心理実践実習B	1・2通		1				○	2	3						
	心理実践実習C	2通		1				○	1	2						
小計（46科目）				0	72	0	－			9	6	1	3	0	8	
法学・政治学プログラム	法学・政治学プログラム特別演習Ⅰ	1・2			2			○			2					
	法学・政治学プログラム特別演習Ⅱ	1・2		2			○		2							
	憲法理論	1・2		2			○			1						
	行政法理論	1・2		2			○									
	刑事システム論	1・2		2			○				1					
	現代憲法論	1・2		2			○				1					
	社会変動分析論	1・2		2			○									
	社会構造分析論	1・2		2			○				1					
	家族支援社会論	1・2		2			○									
	政策過程論	1・2		2			○									
	日本政治論	1・2		2			○									
	行政学	1・2		2			○									
	租税法	1・2		2			○			1	1					
	国際租税法	1・2		2			○									
	憲法理論演習	1・2		2				○			1					
	行政法理論演習	1・2		2				○								
	刑事システム論演習	1・2		2				○				1				
	現代憲法論演習	1・2		2				○				1				
	社会変動分析論演習	1・2		2				○		1						
	社会構造分析論演習	1・2		2				○				1				
	家族支援社会論演習	1・2		2				○		1						
	日本政治論演習	1・2		2				○								
	行政学演習	1・2		2				○			1					
	租税法演習	1・2		2				○		1						
	国際租税法演習	1・2		2				○								
	不動産法	1・2		2				○		1						
	物件管理法	1・2		2				○			1					
	契約法	1・2		2				○			1					
	経営法務	1・2		2				○		1						
	経営法務戦略論	1・2		2				○								
	企業組織法	1・2		2				○								
	企業ファイナンス法	1・2		2				○								
	民事訴訟の理論と実務	1・2		2				○		1						
	裁判外紛争処理論	1・2		2				○								
	雇用関係法	1・2		2				○			1					
	不動産法演習	1・2		2					○	1						
物件管理法演習	1・2	2					○									
契約法演習	1・2	2					○		1							
経営法務演習	1・2	2					○	1								
経営法務戦略論演習	1・2	2					○									
企業組織																

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
グ ラ ム	国際政治経済論	1・2			2		○				1	1				隔年
	国際刑事政策	1・2			2		○			1					1	
	安全保障論	1・2			2		○									
	国際政治学	1・2			2		○			1						隔年
	外交論	1・2			2		○				1					
	国際秩序構築論	1・2			2		○									
	国際関係私法	1・2			2		○									隔年
	比較政治思想論	1・2			2		○									
	日本法概説1	1・2			2		○								2	
	日本法概説2	1・2			2		○								2	隔年
	国際刑事法	1・2			2		○									
	国際法演習	1・2			2			○								
	国際政治経済論演習	1・2			2			○			1					隔年
	国際刑事政策演習	1・2			2			○		1					1	
	安全保障論演習	1・2			2			○								
	国際政治学演習	1・2			2			○		1						隔年
	外交論演習	1・2			2			○			1					
	国際秩序構築論演習	1・2			2			○								
	国際関係私法演習	1・2			2			○								隔年
	比較政治思想論演習	1・2			2			○								
	医事法制度論	1・2			2		○			1						
	医事刑法論	1・2			2		○									隔年
	医療刑事手続論	1・2			2		○									
	医療労務管理と法	1・2			2		○									
	社会調査論	1・2			2		○			1						隔年
	医療社会学特論	1・2			2		○			1						
	Comparative Law	1・2			2		○									
	進化政治学	1・2			2		○									隔年
	進化政治学演習	1・2			2			○								
	現代政治学	1・2			2		○			1						
	現代政治学演習	1・2			2			○		1						隔年
	家族法	1・2			2		○				1					
	家族法演習	1・2			2			○			1					
	Medical History In China	1・2			2		○									隔年
	Medical Ethics and Law	1・2			2		○									
	グローバル法政特講(アジアにおける法政発展)	1・2			2		○						1		1	
	グローバル法政特講(海外法政発展論演習A)	1・2			2			○			1		1		1	隔年
	グローバル法政特講(海外法政発展論演習B)	1・2			2			○					1			
	グローバル法政特講(刑事法基礎演習)	1・2			2			○		1						
小計(85科目)				0	170	0	—			9	8	0	3	0	5	
経 済 学 プ ロ グ ラ ム	経済学プログラム特別演習I	1・2前			2			○		7	10					隔年・共同・オムニバス 隔年・共同・オムニバス
	経済学プログラム特別演習II	1・2後			2			○		7	10					
	応用ファイナンス	1・2前			2		○				1					
	理論ファイナンス	1・2前			2		○			1						
	金融資本市場分析	1・2後			2		○				1					
	空間経済学	1・2後			2		○				1					
	金融庁連携講義1	1・2			2		○			1					2	
	金融庁連携講義2	1・2			2		○			1					2	
	マクロ経済学	1・2②			2		○						1			
	ミクロ経済学	1・2②後			2		○				1				1	
	マクロ経済分析	1・2③			2		○			1						
	計量経済学1	1・2①			2		○									
	計量経済学2	1・2③			2		○			1						
	財政学	1・2④			2		○				1					
	財政政策	1・2④			2		○						1			
	経済戦略論	1・2③			2		○				1					
	公共経済学	1・2①			2		○			1						
	医療経済学	1・2④			2		○			1						
	公共政策論	1・2③			2		○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
	国際公共政策	1・2④			2		○				1					隔年 隔年 隔年 隔年 共同・オムニバス
	応用国際公共政策	1・2①			2		○				1					
	産業組織と政策分析	1・2④			2		○				1					
	欧米経済史1	1・2④			2		○			1						
	欧米経済史2	1・2④			2		○			1						
	経済学史1	1・2④			2		○				1					
	経済学史2	1・2④			2		○				1					
	経済学特講	1・2			2		○			1			2		3	
	小計(27科目)			0	54	0	—			7	10	0	4	0	8	
	DXの概念と現状			2											1	
ソーシヤルデータサイエンスプログラム	情報コンプライアンス				2					1						
	統計解析の基礎				2					1						
	機械学習の基礎				2						1					
	計算社会科学				2										1	
	データ収集・活用・公開				2											
	テキスト解析				2										1	
	数値解析学				2										1	
	計量経済学				2					1						
	国際マーケティング				2						1					
	消費者行動分析				2						1					
	フィンテック概論				2										1	
	計量ファイナンス				2										1	
	多分野データ解析実践演習Ⅰ		1							1	1				1	
	多分野データ解析実践演習Ⅱ		1							1	1				1	
	ミクロ経済学演習			1											1	
	マーケティング演習			1											1	
	Web調査とデジタルマーケティング			1											1	
マネジメントプログラム	パネルデータ分析			1						1						
	リスク管理論			1											1	
	小計(20科目)	—		4	29	0	—			2	3	0	0	0	8	
	リサーチ・リテラシー			2			○				1					
	イノベーション・マネジメント論			2			○				1					
	経営戦略論			2			○				1					
	経営組織論			2			○			1						
	CSR論			2			○			1						
	マーケティング論			2			○				1					
	国際マーケティング戦略論			2			○				1					
	組織行動論			2			○			1						
	人的資源管理論			2			○			1						
	コスト・マネジメント			2			○					1				
	管理会計論			2			○					1				
	財務会計論			2			○						1			
	会計政策論			2			○						1			
	社会心理学特講			2			○			1						
	フィールドワーク論			2			○			1						
	コミュニケーション原論			2			○			1						
	社会行動データ解析			2			○			1						
	公共経営論			2			○								1	
	地域経営論			2			○								1	
	地域分析			2			○								1	
	ビジネス日本語			2			○								1	
	マネジメント特講(日本の組織と経営)			2			○				1					
	マネジメント特講(地域活性化)			2			○								1	
	マネジメント特講(社会調査)			2			○								1	
	マネジメント特講(経済人類学)			2			○								1	
	マネジメント特講(多変量解析特講)			2			○								1	
	マネジメント特講(ファイナンス)			2			○						1			
	マネジメント特講(インベストメント)			2			○						1			
	小計(28科目)	—		2	54	0	—			4	2	1	2	0	1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
国際平和共生プログラム	Peace and Co-existence A	1・2①		1			○			2	4		1			オムニバス オムニバス
	Peace and Co-existence B	1・2③			1		○			2	4		1			
	Peace and Conflict Research I	1・2③			2		○				1					
	Peace and Conflict Research II	1・2④			2		○				1					
	Conflict Resolution I	1・2①			2		○				1					
	Conflict Resolution II	1・2②			2		○				1					
	Peacebuilding I	1・2③			2		○			1						
	Peacebuilding II	1・2④			2		○			1						
	International Relations	1・2③			2		○				1					
	Hiroshima Peace Studies I	1・2③			2		○			1			1			
	Hiroshima Peace Studies II	1・2④			2		○			1			1			
	Memory Studies I (Heritage)	1・2①			2		○				1					
	Memory Studies II (Mind and the Media)	1・2②			2		○				1					
	International Politics I	1・2①			2		○								1	
	International Politics II	1・2②			2		○								1	
	Nuclear Weapons and International Security I	1・2①			2		○				1					
	Nuclear Weapons and International Security II	1・2②			2		○				1					
	Law and Human Rights	1・2②			2		○			1						
	Basic Cultural Anthropology I	1・2①			2		○				1					
	Basic Cultural Anthropology II	1・2②			2		○			1						
	Contemporary Anthropology I	1・2③			2		○				1					
	Contemporary Anthropology II	1・2④			2		○			2						
	Identity and Co-existence	1・2後			2		○								1	
	Area Studies	1・2③			2		○								1	
	Development and Culture	1・2後			2		○								1	
	International Law	1・2①			1		○				1					
	Environmental Anthropology	1・2①			2		○				1					
	Peace, Conflict, and the Environment	1・2前			2		○				2					
	International Humanitarian Law and Principled Humanitarian Action	1・2前			2		○								1	
	Academic Writing for International Peace and Co-existence	1・2後			2		○								1	
	Politics of Conflict and Memory	1・2③			2		○						1			
	小計(31科目)	—		1	58	0	—	—	—	12	23	0	5	0	7	
国際経済開発プログラム	社会科学のための数理・計量分析	1③			2		○						1			隔年 隔年
	調査方法論基礎	1③			2			○		1						
	開発ミクロ経済学I	1③			2		○								1	
	開発ミクロ経済学II	1④			2		○								1	
	開発マクロ経済学I	1③			2		○				1					
	開発マクロ経済学II	1④			2		○				1					
	開発計量経済学I	1①			2		○						1			
	開発計量経済学II	1②			2		○						1			
	経済統計分析論	1後			2		○									
	グローバルガバナンス論	1③			2		○				1					
	農村開発論	1③			2		○				1					
	技術経営論	1④			2		○			1						
	人的資源開発論	1②			2		○			1						
	公共管理論	1③			2		○				2					
	経営組織論	1後			2		○			1						
	経営戦略論	1前			2		○								1	
	環境政策論	1③			2		○			1						
	都市政策論	1④			2		○			1						
	国際協力論	1前			2		○				1					
	労働政策論	1後			2		○				1					
国際経済開発プログラム	国際金融論	1②			2		○			1						
	公共経済論	1③			2		○				1					
	農業生産経済分析	1③			2		○				1					
	持続可能な発展論基礎	1後			2		○					1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
	Evidence-Based Decision Making	1③			2		○				1		1			
	ゲーム理論	1①			2		○				1					
	社会科学のためのリモートセンシング	1④			2		○				1					
	開発政策実践論	1②			2		○						1			
	小計(28科目)	—		0	56	0	—			7	13	1	5	0	3	
人間総合科学プログラム	総合科学系演習	1前		2						1	5		1			共同
	人間総合科学特論A	1・2後		2							1					
	人間総合科学特論B	1・2前		2							1					
	言語構造論	1・2前		2							1					
	心理言語的・社会言語的アプローチからの第二言語習得	1・2前		2						1	1					共同
	実験言語学	1・2前		2						1	1					共同
	運動行動学	1・2後		2						1			1			共同
	運動適応学	1・2前		2						2						共同
	運動制御学	1・2後		2							1		1			共同
	運動精神科学	1・2後		2						2						共同
	認知科学論	1・2前		2							2					共同
	環境行動論	1・2前		2						1	1					共同
	適応行動論	1・2前		2						1	1					共同
	社会行動論	1・2後		2						1	2					共同
	最新行動科学特論	1・2前		2							1					
	現代哲学	1・2後		2							1					
	美的感性論	1・2前		2						1						
	文化哲学	1・2前		2						1						
	実践倫理学	1・2後		2							1					
	比較宗教思想史	1・2後		2							1					
	マイノリティ文化思想	1・2後		2							1					
	日本地域研究	1・2前		2							1					
	日本文藝社会研究	1・2前		2						1						
	アジア文化論(現代文化)	1・2後		2							1					
	アジア文化論(表象文化)	1・2前		2							1					
	アジア文化論(伝統文化)	1・2前		2						1						
	欧米地域研究	1・2前		2							2					共同
	アジア地域研究	1・2前		2						1						
	ヒロシマ平和学	1・2後		2							1					
	英米文化論	1・2前		2							1					
	英米文藝社会研究	1・2前		2						1						
	宗教学	1・2前		2						1						
	宗教聖典論	1・2後		2						1						
	社会人類学	1・2後		2						1						
	民族誌論	1・2前		2						1						
	科学・技術・社会論	1・2前		2							1					
	社会文化史	1・2後		2							1					
	教育文化史	1・2後		2						1						
	異文化理解	1・2前		2							1					
	持続可能な観光発展論	1・2前		2							1					
	文化観光論	1・2後		2							1					
	産業・労働社会学	1・2後		2							1					
	社会構造論	1・2後		2							1					
	社会学研究法	1・2後		2							1					
	福祉社会論	1・2前		2							1					
	農村環境社会論	1・2後		2						1						
	持続可能地域論	1・2前		2						1						
	地域情報論	1・2前		2							1					
	現代中東研究	1・2後		2							1					
	生態系循環論	1・2後		2							1	1				共同
	情報システム論	1・2後		2						1	1		1			共同
	地球表層物質輸送論	1・2前		2						1	1					共同
	地球流体構造論	1・2前		2							1					
	生物多様性科学(環境科学入門)	1・2前		2						1						
	博物館論(自然系)	1・2前		2							1					
	博物館論(人文系)	1・2後		2							1					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期))【既設】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員		
	小計(56科目)	—		2	110	0	—			26	37	1	6	0	3		
特別研究	特別研究			4				○		95	96	3	17		13		
	小計(656科目)	—		13	1259	0	—			96	96	3	30	0	98		
合計(696科目)		—		13	1307	0	—			96	96	3	30	0	217		
学位又は称号		修士(文学) 修士(心理学) 修士(法学) 修士(経済学) 修士(ソーシャルデータサイエンス) 修士(マネジメント) 修士(経営学) 修士(国際協力学) 修士(学術)			学位又は学科の分野				文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係								
卒業・修了要件及び履修方法																	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。																	
修了要件																	
科目区分				要修得単位数	指定科目等												
大学院共通科目				持続可能な発展科目	1単位以上												
				キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上												
研究科共通科目					3単位以上												
プログラム専門科目		所属プログラム専門科目	人文学プログラム、心理学プログラム、法学・政治学プログラム、経済学プログラム、国際経済開発プログラム	12単位以上	「必修」 リサーチリテラシー：2単位												
			マネジメントプログラム		「必修」 Peace and Co-existence A：1単位												
			国際平和共生プログラム		「必修」 総合科学系演習：2単位												
			人間総合科学プログラム	「必修」 DXの概念と現状：2単位 多分野データ解析実践演習Ⅰ：1単位 多分野データ解析実践演習Ⅱ：1単位													
		特別研究		4単位	「必修」 特別研究：4単位												
他プログラム専門科目					2単位以上												
研究科共通科目、所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目			人文学プログラム、心理学プログラム、法学・政治学プログラム、経済学プログラム、マネジメントプログラム、国際平和共生プログラム、国際経済開発プログラム、人間総合科学プログラム	7単位以上													
			ソーシャルデータサイエンスプログラム	4単位以上													
合計					30単位以上												
1 学年の学期区分																	
2学期(4ターム)																	
1 学期の授業期間																	
15週																	
1 時限の授業の標準時間																	
90分																	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期））【既設】																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	専任（ 助手を 除く） 教員			
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2④			1		○								5	オムニバス	
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②			1		○				1					4	オムニバス	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④			1		○									7	オムニバス・共同（一部）	
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②			1		○									7	オムニバス・共同（一部）	
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2②			1		○			1	1					5	オムニバス	
	SDGsへの実践的アプローチ	1・2後			1			○								3	オムニバス	
	ダイバーシティの理解	1・2前			1		○									2	共同	
	原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2④			1		○									1		
	Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2③			1		○									1		
	Innovation and Practice for Smart Society	1・2後			1		○			2	1					5	オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2②③④			1		○			2	1		1				オムニバス・共同（一部）
		医療情報リテラシー	1・2③			1		○									8	
		キャリアマネジメント特論	1・2前③			2		○									2	
		ストレスマネジメント	1・2前			2		○									2	
		MOT入門	1・2前後①			1		○									1	
		情報セキュリティ	1・2前			1		○			1	2					1	
		アントレプレナーシップ概論	1・2後			1		○									1	
		情報科学概論I	1・2②			1		○			1							
		情報科学概論II	1・2④			1		○			1							
		理系基礎研究者養成概論	1・2後			1		○			1							
		留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2①			1		○									2	
		留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2③			1		○									2	
		長期インターンシップ	1・2前後			2			○								1	
		半導体キャリア開発	1・2後			1		○			1							
		小計（24科目）		—		0	27	0	—			8	6	0	1	0	48	
研究科 共通科目		国際性	アカデミック・ライティング I	1①②③④			1			○		15						
			海外学術活動演習A	1・2①②③④			1			○		15						
			海外学術活動演習B	1・2①②③④			2			○		15						
	社会性	MOTとベンチャービジネス論	1・2①②			1		○									1	
		技術戦略論	1・2④			1		○									1	
		知的財産及び財務・会計論	1・2③			1		○									1	
		技術移転論	1・2②④			1		○									1	
		技術移転演習	1・2④			1			○								1	
		ルール形成のための国際標準化	1・2②			1		○									1	
		起業案作成演習	1・2前			1			○								1	
		事業創造演習	1・2後			1			○								1	
		フィールドワークの技法	1・2④			1			○								1	
		インターンシップ	1・2①②③④			1			○		15							
		データビジュアライゼーションA	1・2前後			1		○									2	
		データビジュアライゼーションB	1・2前後			1		○									2	
		環境原論A	1・2後			1		○									1	
		環境原論B	1・2後			1		○									1	
		キラルノット特別セミナー I	1・2通			2		○			1							
小計（18科目）		—		0	20	0	—			15	0	0	0	0	15			

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
プログラム専門科目	数学概論	1②			2		○			4	3					オムニバス
	代数セミナーⅠ	1～2			4			○		2						共同
	代数セミナーⅡ	1～2			4			○		1						
	位相幾何学セミナー	1～2			4			○		1						
	微分幾何学セミナー	1～2			4			○		1	1					共同
	数理解析セミナーⅠ	1～2			4			○		1	1					共同
	数理解析セミナーⅡ	1～2			4			○		1	1					共同
	数理統計学セミナー	1～2			4			○		1	2					共同
	確率論セミナー	1～2			4			○		2						共同
	総合数理セミナー	1～2			4			○		1	3					共同
	代数数理基礎講義A	1・2①			2		○								1	
	代数数理基礎講義B	1・2③			2		○			1						
	代数数理特論A	1・2②			2		○			1						隔年
	代数数理特論B	1・2④			2		○			2	1					隔年
	代数数理特論C	1・2②			2		○			1						隔年
	代数数理特論D	1・2④			2		○								1	隔年
	多様幾何基礎講義A	1・2①			2		○			1						
	多様幾何基礎講義B	1・2④			2		○			1	1					
	多様幾何特論A	1・2②			2		○			1	1					隔年
	多様幾何特論B	1・2③			2		○			1	1					隔年
	多様幾何特論C	1・2②			2		○			1	1					隔年
	多様幾何特論D	1・2③			2		○			2	1					隔年
	数理解析基礎講義A	1・2①			2		○			2	2					
	数理解析基礎講義B	1・2③			2		○			2	2					
	数理解析特論A	1・2②			2		○			2	2					隔年
	数理解析特論B	1・2③			2		○			2	2					隔年
	数理解析特論C	1・2④			2		○			2	2					隔年
	数理解析特論D	1・2③			2		○			1	2					隔年
	確率統計基礎講義A	1・2①			2		○			1						隔年
	確率統計基礎講義B	1・2①			2		○			1	2					隔年
	確率統計基礎講義C	1・2①			2		○			1						隔年
	確率統計基礎講義D	1・2①			2		○			1	2					隔年
	確率統計特論A	1・2③			2		○			1						隔年
	確率統計特論B	1・2④			2		○			1						隔年
	確率統計特論C	1・2③			2		○			1						隔年
	確率統計特論D	1・2②			2		○			1						隔年
	総合数理基礎講義A	1・2①			2		○			1	2					隔年
	総合数理基礎講義B	1・2③			2		○			1	2					隔年
	総合数理基礎講義C	1・2③			2		○			2	2					隔年
	数学特別講義	1・2③			1		○			1					1	
	数学演習	1～2			4			○		10	9					
	数学特別演習A	1前			2			○		10	9					
	数学特別演習B	1後			2			○		10	9					
	数学特別研究	1～2			4			○		10	9					
	小計(44科目)	—			0	109	0	—		10	9	0	0	0	3	
プログラム専門科目	Introductory course to advanced physics	1③			2		○			4	4					オムニバス
	量子場の理論	1②			2		○				1					
	素粒子物理学	1①			2		○			1						
	格子量子色力学	1③			2		○				1					
	熱場の量子論	1②			2		○				1					
	相対論的宇宙論	1①			2		○				1					
	クォーク物理学	1①			2		○			1	1					
	高エネルギー物理学	1②			2		○				2					
	X線ガンマ線宇宙観測	1①			2		○			1	2					
	光赤外線宇宙観測	1②			2		○			1	1					

教 育 課 程 等 の 概 要 (先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】	
---	--

				単位数	授業形態	専任教員等の配置	
--	--	--	--	-----	------	----------	--

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	専任（助手を除く） 教員	備考
プログラム専門科目	物理学プログラム	放射光科学特論A	1①			1		○			5	3					オムニバス
		放射光科学特論B	1②		1	○		3	3			3					
		構造物性物理学	1③		2	○		1									
		電子物性物理学	1①		2	○			1								
		光物性論	1④		2	○		1	1								
		表面物理学	1④		2	○		1									
		放射光科学院生実験	1後		1			○	2	5			1	共同			
		物理学特別講義A	1・2後		1	○		1				1					
		物理学特別講義B	1・2後		1	○		1				1					
		物理学特別講義C	1・2後		1	○			1			1					
		物理学特別講義D	1・2前		1	○			1			1					
		物理学エクスターンシップ	1・2前後		2			○	1								
		物理学演習Ⅰ	1前		2			○	11	22		4					
		物理学演習Ⅱ	1後		2			○	11	22		4					
		物理学特別演習A	1前		2			○	11	22		4					
		物理学特別演習B	1後		2			○	11	22		4					
		物理学特別研究	1～2		4			○	11	22		4					
小計（27科目）		—		0	49	0	—			11	22	0	4	0	8		
プログラム専門科目	地球惑星システム学プログラム	地球惑星システム学概説	1③			2		○			3	4		2		1	オムニバス
		太陽系進化論	1①		2	○		1	2						隔年・オムニバス		
		地球史	1③		2	○		3						2			
		地球ダイナミクス	1②		2	○		2	1		1				隔年・オムニバス		
		断層と地震	1④		2	○		2	1						隔年・オムニバス		
		地球内部物質学	1・2②		2	○		1	1						隔年・オムニバス		
		地球惑星物質分析法	1・2①		2	○		4			1				隔年・オムニバス		
		地球惑星システム学特別講義A	1・2③		1	○		1						1			
		地球惑星システム学特別講義B	1・2③		2		○		1					1			
		国際化演習Ⅰ	1・2前		1			○	4	4		2		1	共同・		
		国際化演習Ⅱ	1・2後		1			○	4	4		2		1	共同・		
		地球惑星エクスターンシップ	1・2前後		1			○	4	1				4	共同・		
		地球惑星融合演習	1前後		2			○	4	3		2		2	共同		
		地球惑星ミッドターム演習	2前		1			○	4	3		2		2	共同		
		地球惑星システム学特別演習A	1前		2			○	8	5		1					
		地球惑星システム学特別演習B	1後		2			○	8	5		1					
		地球惑星システム学特別研究	1～2		4			○	8	5		1					
小計（17科目）		—		0	31	0	—			8	5	0	3	0	6		
プログラム専門科目	化学プログラム	物理化学概論	1①			2		○			2						オムニバス
		無機化学概論	1①		2	○		1	2						オムニバス		
		有機化学概論	1①		2	○			2					オムニバス			
		構造物理化学	1・2③		2	○		1						隔年			
		固体物性化学	1・2②		2	○		2						隔年・オムニバス			
		錯体化学	1・2②		2	○		1						隔年			
		分析化学	1・2③		2	○		1	1					隔年			
		構造有機化学	1・2②		2	○		1						隔年			
		光機能化学	1・2③		2	○		1						隔年			
		放射線反応化学	1・2③		2	○		1						隔年			
		量子化学	1・2③		2	○			2					隔年・オムニバス			
		反応物理化学	1・2②		2	○			1					隔年			
		反応有機化学	1・2①		2	○		1						隔年			
		有機合成化学	1・2②		2	○		1	1					隔年			
		Chiral Topological Solitons	1・2③		2				1								
		化学特別講義A	1・2後		1	○								1			
		化学特別講義B	1・2後		1	○								1			
化学特別講義C	1・2後	1	○								1						
化学特別演習A	1前	2			○	11	7		2		1						
化学特別演習B	1後	2			○	11	7		2		1						
化学特別研究	1～2	4			○	11	7		2		1						
小計（21科目）		—		0	41	0	—			11	7	0	3	0	6		
プログラム専門科目		多孔材料化学論	1①			2		○			1						
		有機材料化学論	1②④		2	○		1									
		無機材料化学論	1②④		2	○		1									

教 育 課 程 等 の 概 要 （先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期））【既設】

				単位数	授業形態	専任教員等の配置	
--	--	--	--	-----	------	----------	--

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数						専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任→ 教員以外 の教員		
プログラム専門科目	機能性色素化学論	1①③			2		○			1					隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 共同		
	超分子化学論	1②④			2		○			1							
	高分子材料化学論	1②③			2		○			1							
	ハイブリッド材料化学論	1②④			2		○			1							
	有機物性化学特論	1・2②			2		○				1						
	環境高分子化学特論	1・2④			2		○				1						
	磁気共鳴化学特論	1・2①			2		○				1						
	錯体化学論	1・2②			2		○				1						
	刺激応答性材料特論	1・2②			2		○				1						
	生体材料工学特論	1・2②			2		○				1						
	ナノ材料化学特論	1・2②			2		○				1						
	ディベート実践演習	1・2③			1				○					3			
	応用化学特別講義A	1・2①			1			○			3						
	応用化学特別講義B	1・2③			1			○			2						
	応用化学特別講義C	1・2②			1			○			2						
	応用化学特別講義D	1・2④			1			○			2						
	応用化学特別演習A	1①・②			2				○		6	7		5			
	応用化学特別演習B	1③・④			2				○		6	7		5			
	応用化学特別研究	1～2			4				○		6	7		5			
	小計（22科目）	－			－	0	41	0	－	－	6	7	0	5		0	3
	微粒子工学論	1・2③ (日) 1・2④ (英)			2		○			1					(日)毎年(英)隔年		
	伝熱工学特論	1・2③ (日) 1・2④ (英)			2		○			1					(日)毎年(英)隔年		
	流動解析論	1・2② (日) 1・2③ (英)			2		○			1					(日)毎年(英)隔年		
	環境化学工学特論	1・2① (日) 1・2① (英)			2		○			1					(日)毎年(英)隔年		
	ソフトマテリアルプロセッシング特論	1・2④			2		○				1				日・英隔年		
	熱流体プロセス工学特論	1・2②			2		○			1					(日)毎年(英)隔年		
	複雑流体力学	1・2③ 1・2④ (日)			2		○				1				日・英隔年		
	界面制御工学特論	1・2③ (英) 1・2④ (日)			2		○			1	±				(日)毎年(英)隔年		
	超臨界流体プロセス特論	1・2④ (日) 1・2② (英)			2		○				1				日・英隔年		
	微粒子界面化学	1・2① (日) 1・2④ (日)			2		○				1				日・英隔年		
	反応プロセス工学特論	1・2② (英)			2		○				1				日・英隔年		
	移動現象特論	1・2④			2		○				1				日・英隔年		
	化学プラントエンジニアリング特論	1・2③			2		○				1				日・英隔年		
	化学工学特別講義A	1・2①			1		○			6							
	化学工学特別講義B	1・2②			1		○			6							
	化学工学特別演習A	1前			2				○	6	7		5	2	共同		
	化学工学特別演習B	1③・④			2				○	6	7		5	2			
	化学工学特別研究	1～2			4				○	6	7		5	2			
	小計（18科目）	－			－	0	36	0	－	－	6	7	0	5	0	2	
		数理学A			1・2②			2		○			1	1			
数理学B		1・2④	2		○					1	1			隔年・共同			
数理学C		1・2③	2		○					1	1			隔年・共同			

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専 任 教 員 以 外 の 教 員 (助手を除く)	
電 気 シ ス テ ム 制 御 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	数理学D	1・2②			2		○			1	1					隔年・共同
	数理学E	1・2④			2		○				2					隔年・共同
	システム計画特論	1・2①			2		○			1						隔年
	システム制御特論	1・2①			2		○			1						隔年
	社会システム工学特論	1・2③			2		○			1						隔年
	サイバネティクス工学特論	1・2③			2		○			1						隔年
	スマートセンシング特論	1・2④			2		○			1						隔年
	Advanced Power System Engineering (電力系統工学特論)	1・2②			2		○			1	1					隔年
	サイバネティクス応用特論	1・2①			2		○			1					3	隔年・オムニバス
	スケジューリング特論	1・2①			2		○				1					隔年
	応用数理特論	1・2②			2		○				2					隔年・共同
	電力システム運用特論	1・2①			2		○			1						隔年
	ロボティクス特論	1・2②			2		○			1						隔年
	生体システム特論	1・2③			2		○			1						隔年
	学習システム特論	1・2④			2		○			1						隔年
	パワーエレクトロニクス特論	1・2③			2		○							1		隔年
	モデルベース開発特論	1・2①			2		○				1					隔年
	電気システム制御特別講義A	1・2②			2		○				1					隔年
	電気システム制御特別講義B	1・2④			2		○			1						隔年
	電気システム制御特別講義C	1・2②			2		○			1						隔年
	電気システム制御特別講義D	1・2④			2		○			1						隔年
	電気システム制御特別講義E	1・2②			2		○				1					隔年
	電気システム制御特別演習A	1①・②			2			○		5	8		2		3	
	電気システム制御特別演習B	1③・④			2			○		5	8		2		3	
	電気システム制御特別研究	1～2			4			○		5	8		2		3	
	小計 (28科目)	—		0	58	0	—	—	—	5	8	0	2	0	4	
機 械 工 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	流体力学特論	1・2①			2		○			1	1					日・英隔年
	機械力学特論	1・2②			2		○			1						日・英隔年
	反応気体力学特論	1・2③			2		○			2			1			オムニバス、日・英隔年
	材料強度学特論	1・2②			2		○			2						オムニバス
	Mechanical Behavior and Strength of Engineering Materials	1・2④			2		○			2						オムニバス
	固体力学特論	1・2①			2		○				1					日・英隔年
	制御工学特論	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	Control System Design	1・2④			2		○			1	1					隔年・オムニバス
	設計学特論	1・2④ (日)			2		○			1						日・英隔年
	自律システム工学特論	1・2④ (英)			2		○									
	Advanced Autonomous Systems Engineering	1・2②			2		○			1						隔年
	熱工学特論	1・2③			2		○			1					1	
	プラズマ工学特論	1・2① (日)			2		○									
	弾塑性学特論	1・2④ (英)			2		○			1			1			日・英隔年
	Optimization of Structural and Process Design	1・2①			2		○				1				1	オムニバス
	Applied Materials Physics	1・2③			2		○			1	1					隔年・オムニバス
	燃焼工学特論	1・2②			2		○			1	1					隔年・オムニバス
	Combustion	1・2②			2		○			1	1					オムニバス
	Advanced Microstructure of Materials	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	材料複合工学特論	1・2③			2		○			2						
	Advanced Energy Plant	1・2④			2		○			1					1	オムニバス
	生産マネジメントシステム特論	1・2④			2		○				1					
	精密工作学特論	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	核エネルギー特論	1・2④			2		○			1			1			オムニバス
	Advanced Biomass Resources	1・2③			2		○			1					1	
	Advanced Biofuel Engineering	1・2③			2		○			1					2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専 任 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
プログラム専門科目	量子材料工学特論	1・2③			2		○			1						隔年
	放射線計測演習	1・2②			2			○		2						・オムニバス
	機械工学特別講義A	1・2①			2		○			1						隔年・
	機械工学特別講義B	1・2①			2		○			1						隔年・
	機械工学特別講義C	1・2①			2		○			1						隔年・
	機械工学特別講義D	1・2②			2		○			1						隔年・
	機械工学特別講義E	1・2②			2		○			1						隔年・
	機械工学特別講義F	1・2②			2		○			1						隔年・
	機械工学特別演習A	1①・②			2			○		18	11		9		1	
	機械工学特別演習B	1③・④			2			○		18	11		9		1	
	機械工学特別研究	1～2			4			○		18	11		9		1	
	小計(37科目)	—		0	76	0	—	—	—	18	11	0	9	0	7	
	材料力学特論	1・2④			2		○				1					
	数値流体力学特論	1・2①			2		○			1						
	輸送機器耐空・耐航性能特論	1・2②			2		○			1						
	システム計画学特論	1・2③			2		○			1						
	構造計測制御特論	1・2③			2		○				1					
	計算破壊力学特論	1・2②			2		○				1					
	リモートセンシング特論	1・2②			2		○				1					
	輸送・環境システムインターンシップ	1・2①・②・③・④			1				○	1						
	船舶運動力学特論	1・2③			2		○				1					
	空気力学特論	1・2④			2		○				1					
	複合材料工学特論	1・2①			2		○			1						
	観測海洋学特論	1・2④			2		○				1					
	海洋動力学特論	1・2①			2		○			1	1					
プログラム専門科目	輸送・環境システム特別講義A	1・2①			1		○			1						隔年・
	輸送・環境システム特別講義B	1・2②			1		○			1						隔年・
	輸送・環境システム特別講義C	1・2③			1		○			1						隔年・
	輸送・環境システム特別講義D	1・2④			1		○			1						隔年・
	輸送・環境システム特別演習A	1①・②			2			○		5	7		1		1	
	輸送・環境システム特別演習B	1③・④			2			○		5	7		1		1	
	輸送・環境システム特別研究	1～2			4			○		5	7		1		1	
	小計(20科目)	—		0	37	0	—	—	—	5	7	0	1	0	1	
	建築環境設備学特論	1③			2		○				1					
	建築設計学特論	1①			2		○				1					
	都市環境計画特論	1③			2		○			1						
	鋼構造設計法特論	1①			2		○			1						
	鉄筋コンクリート構造特論	1①			2		○				1					
	建築物性能設計法特論	1②			2		○						1			
	建築構造物振動特論	1③			2		○			1	1		1			
	建築企画・計画特論	1①			2		○				1					
	木質構造特論	1②			2		○				1					
	人間環境工学特論	1②			2		○			1						
	歴史的環境保全特論	1②			2		○				1					
	環境・建築設計I	1・2①			2			○			2					
	環境・建築設計II	1・2③			1			○		1						
	建築都市地震工学特論	1・2②			2		○				1					
	建築物設計荷重演習	1・2④			1			○		1	1					
	鉄筋コンクリート構造設計法演習	1・2③			1			○			1					
	鋼構造設計法演習	1・2③			1			○		1						
	建築設計インターンシップ	1・2通			4			○		2						
	建築学特別講義A	1・2①			1		○			1						
	建築学特別講義B	1・2②			1		○			1						
	建築学特別講義C	1・2②			1		○			1						
	建築学特別講義D	1・2③			1		○								1	
	建築学特別講義E	1・2③			1		○								1	
	建築学特別演習A	1①・②			2			○		5	6		2		1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専任教員以外 (助手を除く) の教員	
社会基盤環境工学 プログラム専門科目	建築学特別演習B	1③・④			2			○		5	6		2		1	
	建築学特別研究	1～2			4			○		5	6		2		1	
	小計 (26科目)	—		0	47	0	—			5	6	0	2	0	3	
	地盤工学特論	1①			2		○			1						日・英隔年
	構造力学特論	1②			2		○				1					
	コンクリート構造特論	1②			2		○			1						
	土質力学特論	1③			2		○				1					
	Environmental Fluid Mechanics	1③			2		○			1						
	沿岸環境工学特論	1②			2		○				1					
	環境保全工学特論	1②			2		○			1						
	Infrastructure and Regional Planning	1①			2		○				1					
	構造材料学特論	1・2① (日)			2		○			1						
	構造材料学特論	1・2③ (英)														
	Advanced River Engineering	1・2①			2		○				1					※演習 隔年・ 隔年・ 隔年・ 隔年・
	Advanced Environmental Systems Engineering	1・2④			2		○	※			1					
	社会基盤環境工学特別講義A	1・2前			1		○			1						
	社会基盤環境工学特別講義B	1・2前			1		○			1						
	社会基盤環境工学特別講義C	1・2前			1		○			1						
	社会基盤環境工学特別講義D	1・2前			1		○			1						
	社会基盤環境工学特別演習A	1①・②			2			○		5	7		5		1	
	社会基盤環境工学特別演習B	1③・④			2			○		5	7		5		1	
	社会基盤環境工学特別研究	1～2			4			○		5	7		5		1	
	小計 (18科目)	—		0	34	0	—			5	7	0	5	0	1	
情報科学 プログラム専門科目	Advanced Parallel Architectures and Algorithms	1・2③			2		○			1						隔年
	Embedded System	1・2①			2		○			1	1		1			オムニバス
	Database Engineering	1・2③			2		○			1	4					隔年
	Cryptography	1・2④			2		○			1						隔年
	Computational Complexity Theory	1・2③			2		○			1						隔年
	Mobile Computing	1・2①			2		○				1					隔年
	Applied Mechano-informatics	1・2③			2		○			1						隔年
	Dependable Computing	1・2②			2		○			1						隔年
	Artificial and Natural Intelligence	1・2④			2		○				1					隔年
	情報検索概論	1・2②			2		○				1					隔年
	ビジュアル情報学特論	1・2①			2		○			1						隔年
	画像工学特論	1・2①			2		○				1					隔年
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論	1・2②			2		○			1						隔年
	ソフトウェア工学特論	1・2②			2		○			1						隔年
	情報システム論	1・2③			2		○			1			2			隔年・オムニバス
	計算統計情報環境論	1・2①			2		○			1						隔年
	自然言語処理特論	1・2③			2		○			1						隔年
	Analysis in Information Science	1・2②			2		○				1					隔年
	Data Management	1・2③			2		○			1						隔年
	情報セキュリティ論	1・2③			2		○			1		1	2			隔年・オムニバス
	Formal Engineering Methods for Software Development	1・2④			2		○			1						隔年
	多変量解析応用	1・2④			2		○				1					隔年
	Practical Machine Learning	1・2④			2		○				1					隔年
	脳情報科学特論	1・2②			2		○				1					隔年
	Control of multi-agent systems	1・2③			2		○			1						隔年
	Data Science of Algorithmic Finance	1・2③			2		○			1						隔年
	AIOps演習A (AI系)	1・2前			1			○		1						
	AIOps演習B (システム開発系)	1・2前			1			○		1						
	AIOps演習C (自動運転系)	1・2前			1			○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員	
プログラム専門科目	AIOps演習D(制御系)	1・2前			1			○			1					隔年
	企業インターンシップ	1・2前			2			○		1						
	情報科学特別講義A	1・2前			1		○			1						
	情報科学特別講義B	1・2前			1		○			1			1			
	情報科学特別講義C	1・2前			1		○			1			1			
	情報科学特別講義D	1・2前			1		○			1						
	情報科学特別講義E	1・2後			1		○				1					
	情報科学特別講義F	1・2前			1		○				1					
	情報科学特別講義G	1・2前			1		○			1						
	情報科学特別講義H	1・2前			1		○			1						
	IDS Study Abroad IIA	1・2通			2		○			1						隔年
	IDS Study Abroad IIB	1・2通			2		○			1						
	IDS Study Abroad IIC	1・2通			2		○			1						
	IDS Study Abroad IID	1・2通			2		○			1						
	IDS Study Abroad IIE	1・2通			2		○			1						
	IDS Study Abroad IIF	1・2通			2		○			1						
	IDS Study Abroad IIIA	1・2通			3		○			1						
	IDS Study Abroad IIIB	1・2通			3		○			1						
	IDS Study Abroad IIIC	1・2通			3		○			1						
	IDS Study Abroad IIID	1・2通			3		○			1						
	情報科学特別演習A	1①・②			2			○		21	16		5		4	隔年
	情報科学特別演習B	1③・④			2			○		21	16		5		4	
	情報科学特別研究	1～2			4			○		21	16		5		4	
	小計(52科目)	—		0	98	0	—			21	16	0	5	0	4	
プログラム専門科目	デジタルものづくり論	1・2②			2		○			1					14	オムニバス
	イノベーション論	1・2④			2		○								1	
	モデルベース開発特論	1・2①			2		○				1					隔年
	材料シミュレーション論	1・2②			2		○			1						
	データ駆動型システム特論	1・2①			2		○					1				隔年
	スマートセンシング特論	1・2④			2		○			1						
	モデルベース演習Ⅰ	1・2②			1			○					1			隔年
	モデルベース演習Ⅱ	1・2②			1			○			1					
	モデルベース演習Ⅲ	1・2①			1			○		1						隔年
	材料モデルベースリサーチ特別講義	1・2④			2		○					1				
	材料シミュレーション特別講義	1・2④			2		○			1						隔年
	データ駆動型スマートシステム特別講義	1・2②			2		○			1						
	スマート検査・モニタリング特別講義	1・2③			2		○			1						隔年
	デジタルものづくり実践特論	1・2後			2		○				1					
	モデルベース開発(MBD)実践演習	1・2後			2			○			1					隔年
	有機材料化学論	1・2②④			2		○			1						
	無機材料化学論	1・2②④			2		○			1						隔年
	多孔材料化学論	1・2①			2		○			1						
	機能性色素化学論	1・2①③			2		○			1						隔年
	超分子化学論	1・2②④			2		○			1						
	高分子材料化学論	1・2②③			2		○			1						隔年
	ハイブリッド材料化学論	1・2②④			2		○			1						
	システム制御特論	1・2①			2		○			1						隔年
	ロボティクス特論	1・2②			2		○			1						
	ハイパーヒューマン工学特論	1・2④			2		○			1						隔年
	サイバネティクス工学特論	1・2③			2		○			1						
	生体システム特論	1・2③			2		○			1						隔年
	スマートイノベーション特別演習A	1①②			2			○		5	4		2		1	
	スマートイノベーション特別演習B	1③④			2			○		5	4		2		1	隔年
	スマートイノベーション特別研究	1～2			4			○		5	4		2		1	
	小計(30科目)	—		0	59		—			17	4	0	2	0	16	
プログラム専門科目	物質基礎科学セミナーA	1・2前			2			○		7	9		6			
	物質基礎科学セミナーB	1・2後			2			○		7	9		6			
	電子工学セミナーA	1・2前			2			○		10	10		2			
	電子工学セミナーB	1・2後			2			○		10	10		2			

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専 任 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
量子物質科学プログラム専門科目	量子物質科学学外実習	1・2①②③④			2				○	2						共同
	固体電子論	1・2②			2		○			1						隔年
	固体物性論	1・2①			2		○				1					隔年
	電子相関物理学A	1・2①			2		○			1						隔年
	電子相関物理学B	1・2③			2		○			1						隔年
	磁性物理学A	1・2②			2		○			1						隔年
	磁性物理学B	1・2④			2		○				1					隔年
	低温物理学	1・2③			2		○				1					隔年
	光子物理学	1・2③			2		○				1					
	ビーム物理学	1・2②			2		○			1	1					オムニバス
	加速器物理学	1・2④			2		○			1						隔年
	量子弾性学	1・2③			2		○				1					隔年
	物質創成の物理化学	1・2③			2		○			1						隔年
	統計物理学	1・2③			2		○				1					隔年
	量子物理学	1・2②			2		○			1						隔年
	光物性工学	1・2②			2		○			1						隔年
	ナノサイエンス	1・2③			2		○				1					隔年
	Quantum Optics	1・2①			2		○			1						隔年
	プラズモニクス	1・2④			2		○				1					隔年
	水素機能材料学	1・2③			2		○				1					
	半導体物性工学	1・2①			2		○			1						隔年
	電子デバイス物理	1・2③			2		○				1					隔年
	LSI集積化工学	1・2①			2		○			2					2	
	システムLSI設計	1・2③			2		○				1					隔年
	アナログ集積回路A	1・2④			2		○			1						
	アナログ集積回路B	1・2②			2		○				1					隔年
	RF・高速回路設計のための電磁気学	1・2③			2		○				1					隔年
	生体磁気工学	1・2④			2		○			1						隔年
	分子・バイオデバイス工学	1・2②			2		○				1					
	半導体メモリ技術概論	1・2④			2		○			1					17	オムニバス
	集積電子システム論Ⅰ	1・2①			1		○								2	
	集積電子システム論Ⅱ	1・2②			1		○								2	
	センシングシステム	1・2後			2		○								2	
	高周波計測工学	1・2前			2		○								1	
	磁性・スピン工学特論	1・2③			1		○								1	
	AIと通信ネットワークシステム特論	1・2③			1		○								1	
	VLSI工学第一	1・2①			2		○								1	
	ナノデバイス材料解析・プラズマ加工特論	1・2②			2		○								1	
	Technology Analytics on Advanced LSIs	1・2前			2		○								1	
	集積Green-nix特別講義第一	1・2①			1		○								1	
	集積Green-nix特別講義第二	1・2③			2		○								1	
	VLSIレイアウト設計	1・2④			2		○								1	
	機能デバイス特論	1・2②			2		○								1	
	物質基礎科学特別講義A	1・2前			1		○			1					1	
	物質基礎科学特別講義B	1・2前			1		○			1					1	
	電子工学特別講義A	1・2前			1		○			1					1	
	電子工学特別講義B	1・2後			1		○			1					1	
	物質科学概論	1・2①			2		○			2	1					オムニバス
	エレクトロニクス概論	1・2①			2		○			3	1					オムニバス
	職業教育特別講義	1・2①②③④			1		○			1						
	物質基礎科学プレゼンテーション演習	1～2			2			○		7	9		6			
	電子工学プレゼンテーション演習	1～2			2			○		10	10		2			
	物質基礎科学特別演習A	1①・②			2			○		10	10		8			
	電子工学特別演習A	1①・②			2			○		10	10		2			

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専 任 教 員 以 外 の 教 員	
	物質基礎科学特別演習B	1③・④			2			○		10	10		8			
	電子工学特別演習B	1③・④			2			○		10	10		2			
	量子物質科学特別研究	1～2			4			○		20	20		8			
	小計 (61科目)	—		0	114	0	—			20	20	0	10	0	32	
理 工 学 融 合 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	理工学融合共通科目1：スマートな発展	1・2③			2			○		9	3		1			オムニバス
	理工学融合共通科目2：グリーンな発展	1・2③			2			○		9	3		1			オムニバス
	理工学融合共通科目3：レジリエントな発展	1・2③			2		○			4	7		2			オムニバス・共同(一部)
	地球構成物質論	1・2②			2		○				1					オムニバス
	地球表層物質輸送論	1・2②			2		○			1			1			オムニバス・共同(一部)
	地球流体構造論	1・2①			2		○				1					
	複雑系基礎論	1・2②			2		○			2	1					オムニバス
	複雑系物質論	1・2①			2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	複雑系構造論	1・2①			2		○				2					オムニバス・共同(一部)
	相関系量子論	1・2④			2		○			2			1			オムニバス・共同(一部)
	相関系物質論	1・2③			2		○			2	1					オムニバス
	相関系計測論	1・2③			2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	情報システム論	1・2③			2		○			1	1		2			隔年・オムニバス
	情報セキュリティ論	1・2③			2		○			1		1	2			隔年・オムニバス
	計算科学情報環境論	1・2③			2		○			1					1	共同
	計算統計情報環境論	1・2①			2		○			1						隔年
	メディア通信特論	1・2③			2		○				2					共同
	サステナブル物質科学	1・2①			2		○			6	3					4 オムニバス・共同(一部)
	地球水安全保障論	1・2④			1		○				1					
	総合科学系演習	1・2②			2			○		1						
	Environmental Management	1・2②			2		○			2	4				1	オムニバス・共同(一部)
	Developing Designing Ability	1・2前			2		※	○		1	1				1	オムニバス・共同(一部) ※講義
	Practical Seminar on International Cooperation Project	1・2前後			2			○			2				1	共同
	Transportation Engineering	1・2①			2		○			1			1			
	Transportation Planning	1・2②			2		○			1						
	Fundamentals of Survey Methodology	1・2④			2		○				1		1			
	Disaster Risk Management	1・2③			2		○				1					
	Sustainable Architecture A	1・2②			2		○								1	
	Sustainable Architecture B	1・2①			2		○								1	
	Energy Science and Technology	1・2①			2		○				1					
	Numerical Environmental Impact Assessment I	1・2後			2		○				1					
	Numerical Environmental Impact Assessment II	1・2前			2		○				1					
	Geographic Information System Technology	1・2後			2		○						1			
	Botany Resources for the Future	1・2②			2		○				1					
	Environmental Monitoring	1・2後			2		○				1					
	Biomass Energy Technology	1・2③			2		○				1					
	Ecosystem Conservation and Management Science	1・2③			2		○				1					
	Management and Conservation of Ecosystems	1・2①			2		○				1					
	Landscape Ecology	1・2④			2		○				1					
	Introduction and Topics in Environmental Genomics and Ecology	1・2後			1		○			1	1		1			
	Special Seminar for Linkage Program I	1・2後			2			○		2	4				1	
	Special Seminar for Linkage Program II	1・2前			2			○		2	4				1	
	Environmental Health Science	1・2①			2		○				1					
	Urban Environmental Science	1・2③			2		○								1	
	Environmental Epidemiology	1・2③			2		○				1					
	Data Analytics for Sustainable Development	1・2④			2		○				4					

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専 任 教 員 以 外 の 教 員	
		Smart Urban Development	1・2②			2		○			1						
		Agent-based Transport Simulation	1・2前			2		○				1					
		理工学融合共同演習	1～2			2			○		13	13	1			9	
		理工学融合特別演習A	1①・②			2			○		15	11	1	11		10	
		理工学融合特別演習B	1③・④			2			○		15	11	1	11		10	
		理工学融合特別研究	1～2			4			○		15	10	1			10	
		小計（52科目）	—			0	104	0	—		20	18	1	16	0	18	
		小計（473科目）	—		0	934	0	—		168	154	1	72	0	114		
合計（513科目）			—		0	978	0	—		168	154	1	72	0	162		
学位又は称号		修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学） 修士（国際協力学） 修士（学術）		学位又は学科の分野				理学関係 工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件単位数：30単位 ・大学院共通科目：2単位以上 持続可能な発展科目：1単位以上、キャリア開発・データリテラシー科目：1単位以上 ・研究科共通科目：3単位以上 国際性科目：1単位以上、社会性科目：2単位以上 ・プログラム専門科目：25単位以上 ①所属プログラム専門科目：18単位以上 *理工学融合プログラムは16単位以上（プログラム共通科目2単位以上、必修科目8単位及び選択必修科目6単位以上） ②他プログラム専門科目：2単位以上										1 学年の学期区分			2学期（4ターム）				
										1 学期の授業期間			15週				
										1 時限の授業の標準時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程前期））【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員	
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2④			1		○								5	オムニバス
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②			1		○								5	オムニバス
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④			1		○								7	オムニバス・共同（一部）
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②			1		○			1					6	オムニバス・共同（一部）
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2②			1		○			2					5	オムニバス
	SDGsへの実践的アプローチ	1・2後			1			○							3	オムニバス
	ダイバーシティの理解	1・2前			1		○								2	共同
	原爆文学、芸術を通して「平和」を考えるー被爆者の経験記をもとにー	1・2④			1		○								1	
	Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2③			1		○								1	
	Innovation and Practice for Smart Society	1・2後			1		○			2			1		5	オムニバス
	データリテラシー	1・2②③④			1		○								4	
	医療情報リテラシー	1・2③			1		○								8	オムニバス・共同（一部）
	キャリアマネジメント特論	1・2前③			2		○								2	
	ストレスマネジメント	1・2前			2		○								2	
	MOT入門	1・2前後①			1		○								1	
	情報セキュリティ	1・2前			1		○								4	オムニバス・共同（一部）
	アントレプレナーシップ概論	1・2後			1		○								1	
	情報科学概論Ⅰ	1・2②			1		○								1	
	情報科学概論Ⅱ	1・2④			1		○								1	
	理系基礎研究者養成概論	1・2後			1		○								1	
研究科 共通科目	留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2①			1		○								2	オムニバス・共同（一部）
	留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2③			1		○								2	オムニバス・共同（一部）
	長期インターンシップ	1・2前後			2			○							1	
	半導体キャリア開発	1・2後			1		○								1	
	小計（24科目）	—		0	27	0	—			3	0	0	1	0	59	
研究科 専門科目	統合生命科学特別講義	1①		2			○			5	7		2			オムニバス
	生命科学研究法	1③		2			○			2	6		2			オムニバス・共同（一部）
	海外学術活動演習	1・2①・②・③・④			2			○		1						
	プログラム共同セミナーA	1・2①・②・③・④			2			○		1						
	小計（4科目）	—		4	4	0	—			9	13	0	4	0	0	
プログラム 専門科目	統合ゲノム科学A	1・2①			2		○			1	2					隔年・オムニバス・共同（一部）
	統合ゲノム科学B	1・2③			2		○			1	2					隔年・オムニバス
	細胞機能科学A	1・2②			2		○			2						隔年・オムニバス
	細胞機能科学B	1・2④			2		○			1	1					隔年・オムニバス・共同（一部）
	生命機能工学A	1・2③			2		○								3	隔年・オムニバス・共同（一部）
	生命機能工学B	1・2③			2		○				3				2	隔年・オムニバス
	環境バイオテクノロジーA	1・2②			2		○			1	1					隔年・オムニバス
	環境バイオテクノロジーB	1・2④			2		○			1	2					隔年・オムニバス
	ナノバイオ融合マテリアル工学	1・2①			2		○			1	1					隔年・オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
	複合センシング工学	1・2④			2		○			1	1					隔年・オムニバス・共同(一部)
	生物工学特別講義A	1・2前				1	○								1	隔年
	生物工学特別講義B	1・2後				1	○								1	隔年
	生物工学特別講義C	1・2前				1	○								1	隔年
	生物工学特別講義D	1・2後				1	○								1	隔年
	生物工学演習	1～2			2			○							6	
	生物工学特別演習A	1①・②			2			○							4	
	生物工学特別演習B	1③・④			2			○							4	
	生物工学特別研究	1～2			4			○		8	11	1	3		5	
	食品物理学Ⅰ	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	食品物理学Ⅱ	1・2③			2		○			2						オムニバス
	生理活性天然物化学Ⅰ	1・2②			2		○			1	2					オムニバス
	生理活性天然物化学Ⅱ	1・2④			2		○			1	2					オムニバス
	食品衛生微生物学Ⅰ	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	食品衛生微生物学Ⅱ	1・2③			2		○			1			1			オムニバス
	応用動物生命科学	1・2②			2		○			1				1		
	生殖工学技術開発論	1・2②			1		○			1	1					オムニバス
	動物遺伝技術利用論	1・2④			1		○			1						
	食品栄養機能学Ⅰ	1・2①			2		○			1						
	食品栄養機能学Ⅱ	1・2④			2		○			1	1					オムニバス
	応用分子細胞生物学Ⅰ	1・2②			2		○			2	1		1			オムニバス
	応用分子細胞生物学Ⅱ	1・2④			2		○			2	1			1		オムニバス
	食料資源経済学Ⅰ	1・2①			2		○			2						オムニバス
	食料資源経済学Ⅱ	1・2③			2		○			2						オムニバス
	生物圏多文化セミナーA	1・2前			2			○		1						
	醸造資源開発学	1・2前			2		○								2	オムニバス
	応用植物科学	1・2③			2		○				2	1				
	食品生命科学特別演習A	1①・②			2			○		15	9	1	3		2	
	食品生命科学特別演習B	1③・④			2			○		15	9	1	3		2	
	食品生命科学特別研究	1～2			4			○		15	9	1	3		2	
	水産資源管理学Ⅰ	1・2①			2		○			2						オムニバス
	水産資源管理学Ⅱ	1・2③			2		○			2						オムニバス
	水圏動物機能学	1・2②			2		○			1	1					オムニバス
	水産動物繁殖学	1・2④			1		○				1					
	水族生態学	1・2①			2		○				2					オムニバス
	水産生物海洋学Ⅰ	1・2②			2		○			1	3					オムニバス
	水産生物海洋学Ⅱ	1・2④			2		○			1	3					オムニバス
	植物生産機能学Ⅰ	1・2①			2		○			2	1					オムニバス・共同(一部)
	植物生産機能学Ⅱ	1・2③			2		○			2	1					オムニバス・共同(一部)
	家畜生産機能学Ⅰ	1・2②			2		○			2						オムニバス
	家畜生産機能学Ⅱ	1・2④			2		○			2						オムニバス
	家畜飼養管理学	1・2①			2		○			1	1					オムニバス
	応用動物生産論	1・2③			1		○			1			1			オムニバス
	陸域生物圏フィールド科学	1・2②			2		○				2		1			オムニバス・共同(一部)
	大気水圏化学	1・2④			2		○			1	1					オムニバス
	環境植物共生学	1・2④			2		○			2			2			オムニバス・共同(一部)
	生態系循環論	1・2③			2		○			1	1	1				オムニバス
	生物資源科学特別演習A	1①・②			2			○		11	13		1			
	生物資源科学特別演習B	1③・④			2			○		11	13		1			
	生物資源科学特別研究	1～2			4			○		11	13		1			
	総合科学系演習	1・2②			2			○			2			1		
	総合科学系概論	1・2①			2		○			5	5	1				オムニバス・共同
	環境機能化学	1・2③			2		※	○		1	1					共同※講義
	神経細胞科学Ⅰ	1・2前			2		○			1	1				2	オムニバス
	神経細胞科学Ⅱ	1・2後			2		○			1	1				1	オムニバス
	進化生命環境学	1・2③			2		○	※		1	1					オムニバス・共同(一部)※演習
	生物多様性科学(環境科学入門)	1・2②			2		○			1	1					
	生命環境総合科学特別演習A	1①・②			2			○		10	6	1				
	生命環境総合科学特別演習B	1③・④			2			○		10	6	1				
	生命環境総合科学特別研究	1～2			4			○		10	6	1				
	細胞生命学特論	1・2①			2		○			2	1	1				オムニバス・隔年
	セルダイナミクス・ゲノミクス学特論	1・2④			2		○			3	2					オムニバス・隔年

教 育 課 程 等 の 概 要 （統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程前期））【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

自然史学特論	1・2③		2	○		1	2	2		オムニバス・隔年
分子生理学特論	1・2②		2	○		1	2	1		オムニバス・共同(一部)・隔年
基礎生物学特別講義	1・2前		1	○		1	2		3	
先端基礎生物学研究演習A	1①		1	※	○		3	3		オムニバス・共同※講義
先端基礎生物学研究演習B	1③		1	※	○		3	3		オムニバス・共同※講義
先端基礎生物学研究演習C	2②		1	※	○		3	3		オムニバス・共同※講義
先端基礎生物学研究演習D	2③		1	※	○		3	3		オムニバス・共同※講義
基礎生物学特別演習 A	1①・②		2		○	5	10	1	7	
基礎生物学特別演習 B	1③・④		2		○	6	10	1	7	
基礎生物学特別研究	1～2		4		○	8	10	1	6	
数理計算理学概論	1①		2	○			1			
生命理学概論	1①		2	○		6	5		1	オムニバス
数理モデリングA	1・2③		2	○						1 隔年
数理モデリングB	1・2④		2	○			1			隔年
数理モデリングC	1・2③		2	○			1			隔年
数理モデリングD	1・2④		2	○			1			隔年
計算数理学A	1・2①		2	○					1	
計算数理学B	1・2④		2	○		3	1		1	1
数理生物学	1・2③		2	○		1				
応用数理学A	1・2②		2	○			1			
応用数理学B	1・2③		2	○		1				1
大規模計算・データ科学	1・2②		2	○			1			
分子遺伝学	1・2②		2	○		1	1		1	隔年
分子形質発現学	1・2④		2	○		1	1			隔年
分子生物物理学	1・2①		2	○			1		2	隔年・オムニバス
プロテオミクス	1・2②		2	○			1		1	オムニバス
プロテオミクス実験法・同実習	1・2②		2		○	1	1			
生物化学A	1・2①		2	○		1				隔年
生物化学B	1・2③		2	○		1				隔年
自己組織化学A	1・2④		2	○		1	1			隔年・オムニバス
自己組織化学B	1・2①		2	○		1	2			隔年・オムニバス
数理生命科学特別講義A	1・2①		1	○		1				
数理生命科学特別講義B	1・2②		1	○		1				2
数理生命科学特別講義C	1・2③		1	○		1				・オムニバス
数理生命科学特別講義D	1・2④		1	○		1				1
数理計算理学特論A	1・2②		2		○	1	2		1	隔年・共同
数理計算理学特論B	1・2④		2		○	1	2		1	隔年・共同
数理計算理学特論C	1・2②		2		○	1	2		1	隔年・共同
数理計算理学特論D	1・2④		2		○	1	2		1	隔年・共同
生命理学特論A	1・2②		2		○	4	4		4	隔年・共同
生命理学特論B	1・2④		2		○				4	隔年・共同
生命理学特論C	1・2②		2		○				4	隔年・共同
生命理学特論D	1・2④		2		○				4	隔年・共同
数理計算理学特別演習A	1①・②		2		○	2	2		1	1
数理計算理学特別演習B	1③・④		2		○	2	2		1	1
生命理学特別演習A	1①・②		2		○	5	5		1	
生命理学特別演習B	1③・④		2		○	5	4		1	
数理生命科学特別研究	1～2		4		○	8	7		2	2
生命医科学セミナー A	1 ③		1		○	12	11		9	3
生命医科学セミナー B	2 ③		1		○	12	11		9	3
先端生命技術概論	1 ①		2	○		1	7		5	オムニバス
疾患モデル生物概論	1 ③		2	○		10	2		2	オムニバス
生命医科学特別講義	1・2前		1	○		2				
人体の構造	1前		2	○						8 オムニバス
人体の機能	1前		2	○						15 オムニバス
病因病態学	1後		2	○						9 オムニバス
生体防御学	1③		1	○						7 オムニバス
総合薬理学	1④		1	○						2 オムニバス
医療政策・国際保健概論	1①		1	○						9 オムニバス
予防医学・健康指導特論A	1①		1	○						9 オムニバス
予防医学・健康指導特論B	1③		1	○						8 オムニバス
生命・医療倫理学A	1①		1	○						8 オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要 （統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程前期））【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

合計(174科目)	—		4	302	20	—	62	63	4	30	0	153	
-----------	---	--	---	-----	----	---	----	----	---	----	---	-----	--

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等
---------------	-------

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要の研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 ○生物学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（生物学演習 2単位、生物学特別演習A2単位、生物学特別演習B2単位、生物学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ○食品生命科学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（食品生命科学特別演習A 2単位、食品生命科学特別演習B 2単位、食品生命科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ○生物資源科学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（生物資源科学特別演習A 2単位、生物資源科学特別演習B 2単位、生物資源科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。	1 学年の学期区分 2学期（4ターム）
---	-----------------------------------

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専任(助 手以外 の教員)	
	○生命環境総合科学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（総合科学系演習 2単位、生命環境総合科学特別演習A 2単位、生命環境総合科学特別演習B 2単位、生命環境総合科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ○基礎生物学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（先端基礎生物学研究演習A 1単位、先端基礎生物学研究演習B 1単位は必修。分子生理学特論、細胞生命学特論、セルダイナミクス・ゲノミクス学特論、自然史学特論、基礎生物学特別講義のうち4単位は選択必修（4単位以上も履修可能）。基礎生物学特別演習A 2単位、基礎生物学特別演習B 2単位、基礎生物学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。							1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業の標準時間			90分					
		○数理生命科学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（数理計算理学概論2単位、生命理学概論2単位は必修。数理計算理学特別演習A 2単位及び数理計算理学特別演習B 2単位、又は生命理学特別演習A 2単位及び生命理学特別演習B 2単位は必修。数理生命科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ・自由科目は、修了要件上のプログラム専門科目や他プログラム専門科目に加えることができない。なお、教育職員免許状を取得する場合、数理計算理学特論A～Dは数学、生命理学特論A～Dは理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」として、それぞれの教科の専修免許状に必要な修得単位数に加えることができる。														
	○生命医科学プログラム ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：13単位以上（研究基盤科目（生命医科学セミナーA 1単位）、研究実践科目（生命医科学特別演習A 2単位、生命医科学特別演習B2単位、生命医科学特別研究4単位）は必修。生命科学科目2単位以上、医科学科目2単位以上。） ・自・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：9単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。															

授業科目の概要					要
(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
大学院共通科目	持続可能な発展科目		(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいうべき原爆・被爆被害と社会復興の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する上で、今日的に緊急性の高いテーマを取り扱う。たとえば、記憶操作による国内外の分断、核・放射線被害・貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに平和のあり方を検討する。 (オムニバス方式/全8回) (108 VAN DER DOES LULI/4回) 講義の概要,HIROSHIMAの意義と普遍的平和、包括的戦後復興とSDGs (46 川野 徳幸/1回) 原爆被爆被害の概要 (79 保田 浩志/1回) 国連による核実験・原発事故の影響評価 (77 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意味ー広島・長崎、セミパラチンスクなど世界の核被害から放射性微粒子までー (123 志賀 賢治/1回) 平和記念資料館の軌跡と課題	オムニバス方式	
	Hiroshimaから世界平和を考える				
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace		(概要) (英文) The course will cover Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace. (和訳) 本講義では、日本が経験してきた社会発展ー経済、インフラ、平和ーについて扱う。 (オムニバス方式/全8回) (44 鹿嶋 小緒里/4回) ガイダンス、日本の環境政策の歴史、日本の開発協力の概要、まとめ (9 高橋 与志/1回) 日本における労働政策と労働慣行の歴史 (6 片柳 真理/1回) 平和構築の観点から見る広島の復興 (99 JOSHI NIRAJ PRAKASH/1回) 産業政策と経済成長 (82 吉田 修/1回) 日本の政府開発援助とアジア政策	オムニバス方式	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health		(概要) (英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and historical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects. (和訳) 本講義は、広島大学の基本理念である「平和の希求」および長期ビジョン「Splendor Plan 2017」に基づき、SDGsに関わる諸課題を議論することを目的としています。SDGsは、持続可能性を地球規模の最重要課題として位置づけていますが、そのような広範な課題には常に多くの関連要素が含まれており、ある課題を解決すると別の課題が生じることもあります。そのため、分野横断的なアプローチや歴史的視点が重要となります。また、SDGsの重要な原則として「包摂性」があり、先進国・途上国の別なくすべての国が協力して課題解決に取り組む必要があります。 こうした分野横断的視点、歴史性、そして包摂性を踏まえる際、日本の開発経験は重要なケースとなります。というのも、日本は欧米以外の国の中で初めてOECD加盟国となった国であり、その発展過程における成功・失敗の双方から多くを学ぶことができるためです。これらの経験には、開発援助を含むさまざまな取り組みが含まれ、現代の日本社会とも密接に結びついています。一方で日本は現在、急速な高齢化や人口減少といった新たな課題にも直面しています。本講義では、これらの視点から日本の人間開発の経験について考察します。 (オムニバス方式/全8回) (56 清水 欽也/3回) ガイダンス、日本における授業研究：日本の教育におけるPDSIのツールとしての役割、まとめ (9 高橋 与志/1回) 日本の民間部門における人材育成 (96 櫻井 里穂/1回) 日本の教育における学校給食を通じた栄養教育 (60 関 恒樹/1回) 日本の近代化の社会文化的側面：規範・精神性・生活様式の変容に焦点を当てて (62 田中 純子・120 秋田 智之/1回) (共同) 公衆衛生分野における国際協力と研究連携 (78 森山 美知子/1回) 日本の医療制度：その特徴と歴史	オムニバス方式・共同 (一部)	

授 業 科 目 の 概 要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	SDGsへの学問的アプローチA		(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかし、この課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本授業では、人権を中心に取り組む。SDGsへの学問的アプローチBと合わせて受講することが推奨される。 (オムニバス方式/全8回) (67 永田 良太/3回) 情報化による急激な変化が進む中で、先進国と途上国の境目がなくなりつつある。本授業では、今後の教育に求められる役割と課題について考える。 (43 小櫃 剛人/1回) 気候変動などの食料生産を脅かす要因について概説し、食料の安定確保と飢餓問題を解決するための持続可能な食料生産システムについて議論する。 (124 杉山 文/1回) 安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくために不可欠な開発課題であることから、疾病対策を含む健康維持のための社会医学的、公衆衛生学的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。 (78 森山 美知子・116 RAHMAN MD MOSHIUR/1回) (共同) プライマリ・ヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス、非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。 (55 佐藤 暢治/1回) グローバリゼーションの肯定的な点を否定することなく、言語の多様性を維持することが今日の社会において、人々が望む生活の質、幸福になぜ必要なのか、生物の多様性にも言及しつつ議論する。 (96 櫻井 里穂/1回) 多文化共生に関する講義を行う。具体例として、年々増えつつある技能実習・特定技能を検証し、その問題点と考えられる改善策を探る。	オムニバス方式・共同 (一部)
	SDGsへの学問的アプローチB		(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決にとどまらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会のあり方が求められている。本授業では、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。SDGsへの学問的アプローチAと合わせて受講することが推奨される。 (オムニバス方式/全8回) (6 片柳 真理/2回) SDGsの策定経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論する。 総括討議 (84 李 漢洙/1回) 気候変動と自然災害の仕組み、そして沿岸災害と防災について考える。 (107 日比野 忠史/1回) 市民が安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへアクセスできることを確保し、資源循環を図り包摂的、強靱 (レジリエント) で持続可能な環境の実現について議論する。 (65 長命 洋祐/1回) 我々にとって、雇用とは？働きがいは？、働くことの視点から持続可能な社会・経済に向けた展望と課題について議論する。 (86 朝倉 隆道/1回) 人の育成を支える教育で、どのような課題や解決策 (研究都市開発やICTなど含む) が国際社会で論じられているのか、議論する。 (7 小池 一彦/1回) 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。 (122 川本 亮之/1回) 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを、SDGsの観点から議論する。	オムニバス方式
	SDGsへの実践的アプローチ		(概要) SDGsは、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現等の17の目標からなる。さらに各目標を達成するための169のターゲットが設定されている。これらを実現するために、最も影響力があるのは小中高등학교における教育である。授業では、次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え、行動力を育成しているかについて実践的にアプローチすることにより、その実践に取り組める資質能力の育成を目指す。具体的には、SDGsの理念、基本的な考え方を学ぶとともに、SDGsを実践している学校やユネスコスクールへの訪問等を行う。社会人を優先する。 (オムニバス方式/全8回) (66 永田 忠道/2回) ユネスコスクールとSDGsへの実践的アプローチの現状と成果 (48 木下 博義/2回) 批判的思考とSDGsへの実践的アプローチの現状と成果 (89 雲財 寛/4回) STEAM教育とSDGsへの実践的アプローチの現状と成果	オムニバス方式
	ダイバーシティの理解		ダイバーシティ (多様性) に関して、公正と関連した学術的な知見と学び、多様性の様々な次元における理論的研究や実践的な取り組みに対する理解を深めることで、ダイバーシティを包摂する社会の在り方についてのビジョンを持つ。	共同

授業科目の概要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	原爆文学, 芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-		被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいうべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこで、今日的に緊急性の高いテーマである、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップを理解し、理想的な平和のあり方を検討する。	
	Climate Change Adaptation and Mitigation		(英文) This course aims to familiarize students with major topics related to climate change and associated adaptation and mitigation measures. (和訳) この科目は、気候変動に関する主要なテーマと、それに伴う適応および緩和策について、学生が理解を深めることを目的としている。	
	Innovation and Practice for Smart Society		(概要) (英文) Japan is promoting the realization of Society 5.0 as part of its efforts to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs). By leveraging advanced technologies such as data science, artificial intelligence (AI), and robotics, the country aims to address various societal challenges. As Society 5.0 develops and expands internationally, there is an increasing need for highly specialized professionals who can tackle the complex challenges arising from economic growth, including mobility, energy, food security, healthcare, the environment, and public policy. To meet these societal needs, Innovation and Practice for Smart Society has emerged as a discipline dedicated to developing the systems and technologies necessary for realizing Society 5.0 and implementing them in society. This course will explore specific global and societal challenges through case studies, examining the methodologies and potential applications of Smart Society Practical Science, which integrates theory and practice to develop effective solutions. Emphasizing the interaction between technology and social institutions, the course will investigate new approaches for building a sustainable society. (和訳) 日本は、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取り組みの一環として、ソサエティ5.0の実現を推進している。データサイエンス、人工知能 (AI)、ロボティクスなどの先端技術を活用することにより、さまざまな社会課題の解決を目指している。ソサエティ5.0が発展し国際的に拡大するにつれ、移動、エネルギー、食料安全保障、医療、環境、公共政策といった、経済成長に伴って生じる複雑な課題に取り組む高度専門人材の需要が高まっている。これらの社会的ニーズに応えるため、「スマート社会のためのイノベーションと実践」という学問分野が形成された。この分野は、ソサエティ5.0を実現するために必要なシステムや技術を開発し、それらを社会へ実装することを目的としている。本講義では、具体的なグローバルおよび社会的課題をケーススタディとして取り上げ、理論と実践を統合して効果的な解決策を創出する「スマート社会実践科学」の方法論と応用可能性を検討する。 本講義は、技術と社会制度の相互作用に着目し、持続可能な社会を構築するための新たなアプローチを探索するものである。 (オムニバス方式/全8回) (98 島崎 航平/1回) Cyber Physical (63 力石 真/1回) Smart Mobility (84 李 漢洙/1回) Smart Energy (109 藤吉 奏/1回) Smart Agriculture 1 (121 NGUYEN VAN QUAN/1回) Smart Agriculture 2 (132 TRAN ANH DUC/1回) Smart Agriculture 3 (95 近藤 雅征/1回) Social Innovation Science 1 (99 JOSHI NIRAJ PRAKASH/1回) Social Innovation Science 2	オムニバス方式

授業科目の概要				
(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー		本授業では、基本的な記述統計および推測統計の手法について深く理解し、統計の正しい使用方法と結果の適切な解釈を身につけることを目的とする。また、統計分析において重視される透明性と再現可能性の確保を図り、Rを用いたデータ分析を実践することで、これらの姿勢を養うものである。	
	医療情報リテラシー		(概要) がんゲノム情報を用いた新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究に加え、電子カルテやPHRなどの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能となったカルテ情報やレセプト情報を活用した疫学研究など、医学研究においては医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的観点も含め、さまざまな医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では、受講者の医学・医療に関する基礎知識を前提として、医療情報の適切な取り扱いおよび処理・加工・解析に必要な知識・技術について、基礎的な解説と実習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (120 秋田 智之/1回) ガイダンス、疫学研究における医療情報取得と利活用 (115 山田 ゆかり/1回) 健診・レセプト情報の疫学研究への活用 (111 三木 大樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の取扱規則、功罪や有用性 (131 田中 武志/1回) 医学医療分野における診療データの種類やシステムの課題、情報有用性 (76 檜井 孝夫/1回) がんゲノム情報の概要、課題 (50 久保 達彦/1回) 災害医療活動における標準データセット構築手法 (34 阿部 伸一/1回) 保健医療分野におけるデジタルテクノロジーの応用と将来の展望及び課題 (120 秋田 智之・124 杉山 文/1回) (共同) まとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	キャリアマネジメント特論		コミュニケーション力は、社会人にとって必要不可欠な能力である。対話のコミュニケーションにおいては言語による意思疎通だけでなく、非言語的な要素にも配慮が必要である。本科目では様々な場面における対話によるコミュニケーションのスキルについて解説を行った後に、スキルを養成するための演習を実施する。 具体的な目標は次のとおりである。 1. 対話コミュニケーションに当たっては、言語情報だけでなく非言語的要素（視線、あいづち、うなずき等）が重要であることを理解する。 2. 研究概要書の作成や研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。 3. 傾聴スキルの基本について理解する。 4. ファシリテーションスキルについて理解する。	
	ストレスマネジメント		21世紀がメンタルヘルスの時代であると言われて久しい（WHO, 2014）。しかしながら、研究活動における過重な負担や人間関係の困難、将来のキャリアに対する不安、経済的問題など、大学院生を取り巻くメンタルヘルスの課題は多様化・深刻化している。こうした複合的なストレス問題に対処するためには、ストレスに立ち向かう具体的な方法論を理解し、そのスキルを獲得することが不可欠である。 本講義では、ストレス理論の基本的理解に基づき、ストレスが心身の健康や行動面に及ぼす影響について解説する。また、ストレスとなる出来事の特徴、不安や怒りなどの心理的反応、ストレスに対する生理的反応、さらには直接的・間接的な健康への影響についても理解を深める。そのうえで、こころの健康を目指す予防教育としてのストレスマネジメントを実践できるよう、基本的な考え方と実践例を紹介する。具体的には、ストレスを管理・軽減するためのツールとして、ストレスコーピング、認知行動療法（認知再構成法、行動活性化療法）、マインドフルネス、睡眠の心理教育などを取り上げ、大学院生が日常生活や学習・研究の場で活用できる実践法についても扱う。	
	MOT入門		本講義はMOTの基本を系統的に学習することを目標とするものである。経営管理の本質を理解するために、重要かつ基本的な部分を取り上げる。事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、費用便益分析、在庫管理、リーダーシップ、起業など、技術経営の中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	情報セキュリティ		(概要) 本講義は、研究者としてだけでなく社会人として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際について事例を交えて説明する。 (オムニバス方式/全8回) (72 西村 浩二・112 村上 祐子/1回) (共同) ガイダンス、情報セキュリティの実際と基礎 (72 西村 浩二/1回) 情報セキュリティ技術 (1) : 基礎技術 (暗号, 公開鍵基盤, 認証) (119 渡邊 英伸/2回) 情報セキュリティ技術 (2) : ネットワーク, Web, データベース, 情報セキュリティ対策: セキュリティ対策 (ネットワーク, サーバ) (129 下地 寛武/2回) 情報セキュリティ管理: 情報セキュリティマネジメントシステム, 情報セキュリティ関連法規 (72 西村 浩二・129 下地 寛武・112 村上 祐子・119 渡邊 英伸/2回) (共同) グループディスカッション	オムニバス方式・共同 (一部)
	アントレプレナーシップ概論		本講義では、起業家精神(アントレプレナーシップ)の基盤となるリーダーシップのマインドセットに焦点を当てる。激動の時代を生き抜き、しなやかに未来を切り拓いていくための変革は、社会に対する洞察を深め、自らの役割を多面的に探究するプロセスから始まる。自分自身の資質や価値観を見直し、内なる指針を確立することで「リーダーとしての軸」を育むとともに、他者からのフィードバックを通じてそれらを内省的に整理し、言語化できるようになることを目指す。	
	情報科学概論I		情報科学で重要となる事項を学び、情報科学分野における基礎知識の習得を目標とする。	
	情報科学概論II		情報科学で重要となる事項を学び、情報科学分野 (特にソフトウェア開発) における基礎知識の習得を目標とする。	
	理系基礎研究者養成概論		本講義の縦軸は研究者へのキャリアパス、そして横軸は最先端での理学研究の実情である。身近で事情がよくわかっている研究者を例として、理系の研究者としての道を歩むためにはどのようなキャリアを積み重ねていけば良いか講義する。講義では、最先端の研究内容や研究者の魅力、研究生活にも踏み込み解説する。この講義を通じて、どうやったら理系の研究者になれるのか、どのようなことが必要とされているのか、研究者の醍醐味や課題について理解し、学生自身のキャリアを考える上での動機となってくれることを目標としている。	
	留学生のためのキャリアマネジメント講座A		(概要) 日本企業の一般的な企業文化や制度を理解するとともに、大手から中小まで様々な業種の企業等で活躍する卒業生から、自社の企業文化や制度、様々な分野の業務、国境を越えたビジネスの最前線の具体的かつリアルな話を聞くことにより、現実の企業やその中での働き方を理解する。日本の典型的な企業文化や制度、及びその機能や意義を理解するだけでなく、具体的な事例を知ることによって、そのバリエーションを理解する。日本の企業組織と企業文化を理解することにより、自分がどのような業界でどのように働くかをイメージする。 (オムニバス方式/8回) (54 坂田 桐子・9 高橋 与志/1回) (共同) ガイダンス、日本におけるキャリアパスを理解する 1 (9 高橋 与志/1回) 日本におけるキャリアパスを理解する 2 (54 坂田 桐子/6回) 製造、物流、IT、金融など毎回異なる業界の企業からゲストを招き、キャリアパスや起業、自社の人事制度などについての講義を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)
	留学生のためのキャリアマネジメント講座B		(概要) 日本企業における人事制度、及び様々な企業や業種のキャリアパスを理解する。企業や業種に応じた典型的なキャリアパスについて理解した後、大手から中小まで様々な業種の企業等で活躍する卒業生や、独立して起業した方などから自身のキャリアを交えつつ、企業で見られるキャリアパスについて紹介してもらうことで、多様なキャリアパスを理解すると同時に、チャンスを活かす方法や自身で自律的にキャリアを作り上げる姿勢を学ぶ。日本企業の人事制度やキャリアパスについて知り、自身が希望するキャリアを具体的にイメージする。 (オムニバス方式/8回) (54 坂田 桐子・9 高橋 与志/1回) (共同) ガイダンス、日本におけるキャリアパスを理解する 1 (9 高橋 与志/1回) 日本におけるキャリアパスを理解する 2 (54 坂田 桐子/6回) 製造、物流、IT、金融など毎回異なる業界の企業からゲストを招き、キャリアパスや起業、自社の人事制度などについての講義を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)

授		業		科		目		の		概		要	
(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）)													
科目 区分		授業科目の名称		主要授業科目		講義等の内容						備考	
基礎 モジ ュ ー ル 科 目		長期インターンシップ				本授業は、日本の企業組織・企業文化やそこでの働き方などを実際に経験することによって、日本企業・組織に対する理解を深めることを目的とする。また、実際に日本の企業で業務遂行を経験することで、企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成を図り、自身のキャリアパスを現実的にイメージする。 実習期間の目安が事前・事後指導含め原則1ヵ月間程度以上で、企業での業務遂行等2週間以上を含み、主に以下の派遣先を中心とする長期インターンシップを対象として単位を認定する。 ① 学生本人または所属研究科等で受け入れ先が決定している場合 ② グローバルキャリアデザインセンターへのインターンシップ相談等を通じて受け入れ先が決定した場合							
		半導体キャリア開発				現代社会を支える基盤技術である半導体がどのように発展してきたのかを学び、産業のコメと言われる理由を理解する。電子工学を基盤としつつ、材料、物性理論、化学、機械工学、インフラ、経済といったさまざまな知識の集積により成り立っている産業であることを理解し、あらゆる分野の専門知識を半導体に活用するキャリア形成の基礎を学ぶ。							
	海洋政策・海洋ガバナンス領域	International Relations				海洋・海事について、ガバナンスの基礎となる、国際関係、国際秩序の基礎を学ぶ。アナーキーを基礎とする国際秩序のあり方を理解することが、海洋・海事ガバナンスの理解に必要である。講義では国際関係の構造を提示することを目的とする。国際関係の基礎となるアナーキーの構造、安全保障、経済、イデオロギーの3つの領域を中心とし、特定のテーマを選んで、討論する。理解の基礎となる文献を輪読し、その後教員と学生の間で毎回ごとのテーマに照らして議論する。							
		Law and Human Rights				本講義は、今日各国で実在する諸課題（貧困、差別、難民、無国籍者など）が人権とどのように関わっているのかを検討することを通じて、人権及び国際人権法を理解することを目的とする。同時に、履修者は自国の憲法における人権規定を確認することが求められる。授業では具体的な問題に照らして国際人権法を紹介するので、履修者は事前に国際人権法の知識を必要とするものではない。様々な人権条約について学ぶと共に、人権を守るための国際的なメカニズムについて理解していく。 授業は講義とディスカッションの組み合わせによって行い、後半には学生によるプレゼンテーションを実施する。							
		International Law I				国際法の広範な領域の中で、国際法の性質、法源、主体、管轄権等の基礎的な概念を扱う。国際法と国際社会、国際法の法源、国際法の主体：国家、国際機構、企業・団体、個人、管轄権、国際司法制度、領域等の分野で基礎的な理解を習得させる。							
		International Law II				国際法が紛争と関連する実践的な側面で、どのように適用されるかに注目して、国際法と国際関係の接点にあたる領域を講義する。国際法の内容、国家承認、国際人権保障、国際法廷、国連、国際紛争と国際法等の領域において、国際法が現実の事案にどのように適用されているかを中心に、教員と受講生で議論を行う。							
		Introduction to Maritime Security				国際政治、安全保障研究、海洋法、実務的な海上安全問題を統合した理解を持てることを目指す。海洋をめぐる安全保障問題を総合的に理解する。海賊、海上テロ、海洋領有権紛争、シーレーン防衛、海洋資源、グレーゾーン事態などを同じ平面で理解できるようにする。							
		Law of the Sea				国連海洋法条約（UNCLOS）を中心に、海域区分、航行、資源、環境、紛争解決など海洋法の基本体系を理解する。UNCLOSの基本構造、海域における国家の権利と義務、海洋紛争の主要論点を把握した上で、判例を用いて海洋問題を分析できるようにする。							
		Public Economics				(英文) The main goal of this course is to provide a hands-on introduction to empirical research, while reading topics related to public economics, public good provision, and development economics. We will discuss research articles and learn about the techniques used in them. The midterm evaluation will be based on a replication exercise: I will provide data from a paper, and you have to replicate the main results. The final evaluation will consist on preparing a research proposal. (和訳) 本授業の主たる目的は、公共経済学、公共財供給、ならびに開発経済学に関連するテーマを扱いながら、実証研究についての実践的な入門を提供することである。授業では研究論文を取り上げ、それらで用いられている分析手法について議論し、理解を深める。							
	Development Microeconomics I				(英文) Development Microeconomics employs fundamental tools of microeconomics analysis to address topics central to market development issues in developing countries. It concentrates on basic theoretical issues concerning general market and each player's behavior with/without public policies. The course will acquaint students with fundamental microeconomic theories as applied to several issues of concern in developing countries. (和訳) 開発ミクロ経済学は、ミクロ経済学の基礎的な分析手法を用いて、開発途上国における市場発展に関する中核的な課題を取り扱うものである。本授業では、一般的な市場の仕組みおよび公共政策の有無による各経済主体の行動に関する基礎的な理論的問題に重点を置く。 本授業は、開発途上国において重要となる複数の課題に対してミクロ経済学の基礎理論を適用することを通じて、学生にその理解を深めさせることを目的とする。								
	Development Microeconomics II				(英文) Development Microeconomics employs fundamental tools of microeconomics analysis to address topics central to market development issues in developing countries. It concentrates on basic theoretical issues concerning general market and each player's behavior with/without public policies. The course will acquaint students with fundamental microeconomic theories as applied to several issues of concern in developing countries. (和訳) 開発ミクロ経済学は、ミクロ経済学の基礎的な分析手法を用いて、開発途上国における市場発展に関する中核的な課題を考察する学問分野である。本授業では、一般的な市場の仕組みおよび公共政策の有無に応じた各経済主体の行動に関する基礎的な理論的問題に重点を置く。 また、本授業は、開発途上国において関心の高い複数の課題に対してミクロ経済学の基礎理論を適用し、学生にこれらの理論への理解を深めさせることを目的とする。								

授業科目の概要					要
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
海洋利用技術領域	Urban Policy		(英文) Cities are where the majority of world population lives and where various actions are increasingly undertaken to address different issues related to economic development, infrastructure management, social justice, and environmental sustainability. This course will focus on issues facing urban environments around the world and is designed to introduce students to the underlying institutional, historical, socio-economic, and environmental dynamics that influence urban policy making. The aim is to familiarize students with how urban plans and policies are developed and implemented and what will be the local and global consequences of urban policy making. This course will provide the students with knowledge and skills required to understand and analyze urban issues and will enable them to play a key role in future urban policy making processes through offering innovative and systematic solutions. (和訳) 世界人口の大多数は都市に居住しており、経済発展、インフラ管理、社会的公正、環境の持続可能性などに関連するさまざまな課題に対処するための取り組みが、都市を舞台としてますます行われている。本授業は、世界各地の都市環境が直面する課題に焦点を当て、都市政策決定に影響を与える制度的、歴史的、社会経済的、ならびに環境的な動態について学生に紹介することを目的としている。 本授業の狙いは、都市計画や都市政策がどのように策定・実施されるのか、また都市政策決定が地域のおよび地球規模でどのような影響を及ぼすのかについて学生に理解させることである。さらに、都市問題を理解し分析するために必要な知識および技能を学生に提供し、革新的かつ体系的な解決策を提案することを通じて、将来の都市政策決定プロセスにおいて重要な役割を果たす能力を養成することを目指す。		
	Management of Technology		(英文) Technology management is one of the most critical aspects in order to improve long term performance of firms. The course mainly discusses technology, innovation and operations at the firm level, regarding theoretical foundations as well as management practices such as lean operations and total quality management. The other focus is on the relationship between technology management and the major fields of management studies including strategy, organization and human resource management. In this context, the firm cases from developed, emerging and developing countries are introduced. (和訳) 技術マネジメントは、企業の長期的な業績を向上させる上で最も重要な要素の一つである。本授業では、企業レベルにおける技術、イノベーション、およびオペレーションを主な対象とし、その理論的基礎に加えて、リーン生産方式や総合的品質管理(TQM)といったマネジメント実務についても議論する。 さらに、技術マネジメントと、戦略、組織論、人材管理を含む経営学の主要分野との関係に焦点を当てる。この文脈において、先進国、新興国、開発途上国における企業事例を紹介する。		
	Maritime Industry		海運・造船・港湾・海洋サービス産業などを含む海事産業全体の構造、ビジネスモデル、政策環境、技術変化を理解する。海運、造船、港湾、海洋サービスなどから構成される海事産業の全体像を理解し、その経済構造、企業戦略、技術革新、政策環境を分析する能力を養う。		
	The Ocean and the economy		海の経済的利用のあり方を歴史的に概観する。海運、造船、漁業を中心として、人間の経済活動の中で海洋利用がどのような役割を果たしてきたかについての全体的な理解を獲得させる。		
	Material Joining Process		各種構造物を製造する際に必要不可欠な金属材料の各種溶接・接合法について講述するとともに、各種溶接・接合法の発展の歴史について説明する。さらに、レーザー溶接等の新しい溶接・接合技術や溶接・接合部での破壊事例と損傷解析例なども紹介する。可能であれば、実際の設計・製造現場の見学会等も行う。		
	System Planning		本講義では、品質機能展開、設計生産活動におけるシステムとデータ利用について講義し、システムの分析・計画・表現方法に関する理解を深めることを目的とする。		
	Advanced Computational Fluid Dynamics in Maritime and Ocean and Engineering		流体力学の分野では、数値流体力学 (Computational Fluid Dynamics) という学問が確立され、それに基づく解析 (商用) ソフトウェアを用いて、様々なモノづくりが行われている。特に、海洋・海事・造船分野や環境・エネルギー分野に関連した数値流体力学の数値シミュレーション技術は、科学の真理の探究のみならず、実産業の基幹技術として利用され、その適用範囲は拡大傾向にある。本講義では、数値流体力学の基礎理論・応用理論と技術を理解することを目指している。また、これらに必要なプログラミング技術やアルゴリズムの基礎知識を理解することを目指している。		
	Advanced Ocean Remote Sensing Engineering		リモートセンシング工学は非接触による広域計測手法として、現在エネルギー・環境分野・製造業などで広く使われている技術である。本授業は学部の授業である「リモートセンシング」の応用と位置付けられる。ここでは主に調査が難しい海洋における最新のリモートセンシング計測技術の概要を学ぶことを目的とした講義を行う。		
	Advanced Instrumentation and Control for Structures		輸送機器および環境機器など、構造物やシステムの安全性の維持するために、様々な技術が活用されている。近年は、機器、システムの安全性、信頼性を確保するだけでなく、経済性、事故発生時における社会的な影響を考慮することが強く求められている。本講義では、輸送機器、環境システムなどの安全管理のための基礎技術である設備診断技術、構造の健全性をモニタリングし、損傷、劣化を検知するための計測技術について解説する。また、情報通信技術の発展、新材料の開発により可能となったスマート構造、現代制御理論を用いた構造の制振制御技術などを紹介する。		
	Advanced Aerodynamics		本授業では、輸送機器の諸性能に影響を与える作用空気力や周囲気流性状などの空気力学的特性と、それらを予測評価するための手法について理解することを目標とする。このため本授業では、自動車を中心とする輸送機器の空気力学的特性について、諸特性と関連する物理現象と共に、基礎的な流体力学および輸送機器力学の理論に沿って解説する。また、輸送機器の空気力学的特性を予測評価するための解析、計測技術や、最新の研究事例についても解説、紹介する。		
	Advanced Strength of Material		本講義では、構造物を設計する上で必要となる、材料力学に関する高度な内容について提供する。具体的には、せん断中心、はりの大たわみ、はりの塑性曲げ、積層材料、FRPである。また、材料非線形および幾何学的非線形を考慮した有限変形解析を行う上での知識について提供する。		
	Observational Physical Oceanography		海洋に関する理解は主に観測から得られてきた。本講義では、船舶輸送にとって重要となる海洋現象 (特に海流・潮流) とそれらを観測するための海洋観測法、そして代表的なデータ解析法を理解することを目標とする。また、近年の重要な技術であるデータ同化と機械学習・深層学習についても解説・紹介する。		

授業科目の概要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
海洋環境・海洋資源領域	Ocean Remote Monitoring		地球観測衛星により取得される観測データ（衛星データ）は幅広い分野で利用されており，地球を理解する上で欠くことの出来ないデータとなっている。近年では，衛星データとAIを活用した解析事例も多くみられる。本講義では，海洋環境に影響を及ぼす陸を含めた沿岸域について衛星データを用いた地球観測（リモートセンシング）技術に焦点を当て，衛星による地球観測の歴史や基礎知識，また衛星観測データの基礎的な解析方法や利活用，地球観測技術の国内外の最新動向などについて学ぶ。また，現地調査（フィールドワーク）との別の視点による地球を知るための手法と考え方を理解する。	
	Weather Routing and Vessel Performance Monitoring		本講義では，ウェザルーティングの基礎理論と実践の応用を扱い，海象・気象データに基づく航路最適化および船舶性能モニタリングの考え方を学ぶ。具体的には，風・波浪・海流などの環境外力，船体運動・抵抗・推進性能の関係，数値モデルやデータ駆動手法の活用について解説する。さらに，実運航を想定した評価指標，省エネルギー運航，安全性向上の視点を取り入れ，演習を通じて統合的に理解を深める。	
	Sustainable Production of Fisheries Resources		海洋水産資源の生産に関する基礎的な知識を講義から学び，それをグループワークによって議論しながら整理し，水産資源の持続利用に関するいくつかの課題について探究し発表する。	
	Fisheries Oceanography		（概要） 海洋の物質循環，炭素隔離の理解，数値モデル解析の基礎知識，海藻類の利用と気候変動が海藻類の生態に与える影響についての理解，富栄養化あるいは貧栄養化した沿岸域における栄養塩濃度の管理手法について理解する。 （オムニバス方式/全15回） （17 和田 茂樹/3回） 海洋生物の共生（1）：水圏の物質循環 海洋生物の共生（2）：ブルーカーボン 海洋生物の共生（3）：沿岸生態系の変化 （104 橋本 俊也/4回） 海洋生態系モデル（1）：流動モデルの定式化 海洋生態系モデル（2）：潮汐現象，平衡潮汐，起潮力 海洋生態系モデル（3）：コリオリ力，地衡流 海洋生態系モデル（4）：移流・拡散方程式と生物・化学過程の定式化 （91 加藤 亜記/4回） 海藻類の利用 海藻類と環境（1）：海の熱波 海藻類と環境（2）：地球温暖化 海藻類と環境（3）：海洋酸性化 （85 浅岡 聡/4回） SDGs（6.安全な水とトイレを世界中に） SDGs（14.海の豊かさを守ろう） 沿岸域の栄養塩濃度管理（1） 沿岸域の栄養塩濃度管理（2）	オムニバス方式
	Biological Oceanography		（概要） CO2の増加に対する海洋生物の関わり，数値モデル解析の基礎知識の習得，海藻類の基礎生物学と世界の海藻養殖産業の理解，森川海連関や大気海洋相互作用について理解する。 （オムニバス方式/全15回） （17 和田 茂樹/3回） CO2の増加に対する海洋生物の関わり（1）：気候変動の進行 CO2の増加に対する海洋生物の関わり（2）：沿岸の炭素隔離 CO2の増加に対する海洋生物の関わり（3）：海洋酸性化 （104 橋本 俊也/4回） 表計算ソフト(Excel)によるモデル解析1（基本操作） 表計算ソフト(Excel)によるモデル解析2（統計処理） 表計算ソフト(Excel)によるモデル解析3（作図1） 表計算ソフト(Excel)によるモデル解析4（作図2） （91 加藤 亜記/4回） 海藻類の生物学，海藻類の利用と養殖，アマノリ類の養殖 （85 浅岡 聡/4回） 森川海連関，大気海洋相互作用，沿岸域の環境修復，里海	オムニバス方式
	Fisheries Biology		Microsoft Excelを活用した解析手法について学習する。特に，ピボットテーブルやMicrosoft Excelのアドインであるソルバー機能を活用した解析手法を学習する。例題として水産資源学の解析事例を体験し，概説することによって，理解を深める。	
	Aquatic Ecology		（概要） 水界生態系において重要な役割を担う生物，特に動植物プランクトン，海藻類，底生動物の資源増大を図る上で必要な分類などの基礎的知見に加え，生態学的諸理論，すなわち，生残・繁殖戦略や種内・種間競争，ニッチの確立およびこれらに及ぼす諸環境要因の影響に関する理論を習得させることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （20 斉藤 英俊/8回） 水生生物の分類，生活史，環境適応，個体群生態，群集生態，食物網，地理的分布，外来種問題 （103 豊田 賢治/7回） 水生生物の性差1・2，水生生物の非対称性，繁殖生態1・2，寄生虫学1・2	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目 講義等の内容	備考
		Aquatic Zoophysiology	(概要) 水圏動物の生理機能を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (29 吉田 将之/8回) 水圏動物の各種生理機能について、特徴的な構造をもつ種を例に挙げつつ解説する。 (39 海野 徹也/7回) 水圏動物の各種生理機能について、特徴的な機能を持つ種を例に挙げつつ解説する。	オムニバス方式
専門モジュール科目	共通科目	Evidence-Based Decision Making	(英文) The art and science of decision making is entering into a new era. The paradigm shift is upgrading the process of decision making and its impact evaluation from an experience-based subjective approach to a more objective, evidence-based one. Evidence-based decision making does not merely mean the utilization of data. Rather, it explicitly prohibits doing so, by acknowledging the wisdom that what our data shows in front of our eyes is just the correlation, and not the causation that we need to base our decision on. Throughout the course, all concepts are delivered without using technical expressions. Students will acquire the intuition directly from the lectures and presentations, and are expected to learn the fundamentals of evidence-based decision making and its impact evaluations. The course consists of lectures, weekly assignments, and a final examination. (和訳) 意思決定の技術と科学は新たな時代に入りつつあり、意思決定およびその効果評価のプロセスは、経験にもとづく主観的手法から、より客観的でエビデンスにもとづく手法へと転換しつつある。エビデンスにもとづく意思決定は、単にデータを用いることを意味するのではない。むしろ、データが示すものは相関にすぎず、意思決定の根拠とすべき因果ではないという知見を踏まえ、データの安易な利用を戒めるものである。本講義では、専門的な技術用語を用いずに概念を平易に解説する。受講者は講義およびプレゼンテーションを通じて直感的理解を獲得し、エビデンスにもとづく意思決定およびその効果評価の基礎を学ぶことが期待される。講義は、授業、週次課題、期末試験で構成される。	共同
		Research Method	(英文) This course provides students with foundational knowledge and practical skills in conducting academic research, covering essential steps, methodologies, data collection and analysis techniques, ethical considerations, and effective reporting and presentation of research findings. (和訳) 本講義は、学術研究を遂行するための基礎的知識と実践的技能を習得することを目的とする。研究の主要なプロセス、方法論、データ収集および分析技法、研究倫理上の留意点、さらに研究成果の効果的な報告および発表の方法について扱う。これらを通じて、受講者が独自の研究を円滑かつ適切に進めるために必要な基礎能力を養成する。	
	海洋政策・海洋ガバナンス領域	International Criminal Law	国際刑事司法制度の基礎を理解させる。異なる法制度を持つ国の間で、刑事司法がどのように接続されるのかを議論する。国際刑事司法制度の手続、制裁の構造と基本原則、制裁、上訴、前科登録等を中心として、文献に基づいて教員と履修者が議論していく。	隔年
		International Security I	国際安全保障の基礎を、技術的、歴史的に理解することを目指す。国際安全保障の基本を、交渉、協定、抑止、技術、レジームとその拘束力等の観点に基づいて理解することを目的とする。	
		International Security II	国際安全保障を、各国の実際の政策に基づいて理解することを目的とする。各国の政策と制度、レジームがどのように関わっているのかを理解する。抑止と軍備建設政策、レジームと各国の政策、通常兵器と核兵器の連関、規範的問題と政策への影響を総合的に理解することを目指す。	
		Development Macroeconomics	(英文) This course provides students with essential tools to understand and analyze development issues from a macroeconomic perspective, with attention to policy implementation and institutional contexts. The focus is on intuition and applications rather than technical proofs. (和訳) 本講義は、開発課題をマクロ経済学的視点から理解し分析するために必要な基本的手法を提供するものである。政策実施や制度的背景にも配慮しながら、理論が現実の開発問題にどのように適用されるのかを学ぶ。技術的な証明よりも、直感的理解と実践的応用に重点を置いて展開する。	
		The Political Economy of Global Power	(英文) This course studies the political economy of global power using dynamic macroeconomic models and strategic interaction. (和訳) この講義では、動学的マクロ経済モデルと戦略的相互作用を用いて、グローバルな権力の政治経済学を研究する。	
		Foundations of Maritime Security Policy Making	「Introduction to Maritime Security」の発展科目として、理論・制度の理解を前提に、政策形成過程、政策分析手法、戦略設計を学ぶ。海洋安全保障に関する政策をどのように設計・実行・評価するかを学ぶ。国家安全保障戦略、海洋政策、海上法執行、国際協力等から政策形成の基礎を習得する。	
		Remote Sensing for Social Sciences	リモートセンシングは、物質の光を反射・吸収する特性を利用した広域計測手法である。本授業では、地球観測に関するリモートセンシングの基礎と共に、社会科学への応用について広く講義を行う。各授業の後半は演習に充てており、実践的にリモートセンシングデータに触れることで、理解を深める。	講義 16時間 演習 14時間
		International Maritime Order - Ocean governance and sustainable blue economies	海洋は地球システムを構成する重要な生物圏で、世界を繋ぐ共有財産、コモンズである。海洋の保全と持続可能な利用は水循環や熱収支などとも密接に関連するとともに、食料供給、生物多様性の保全など重要な生態系サービス、更には、文化的・社会的基盤を支えている。一方で気候変動や漁業資源の乱獲、海洋汚染や海洋生物多様性の減少などへの対策は急務となっているが、そのための国際的な政策や制度的枠組みは発展途上にある。この授業では、海洋を取り巻く政策・制度的枠組みを学際的、分野横断的に理解し、海洋保全や持続可能なブルーエコノミーの推進に向けイノベーションや社会協働を推進するための独創的知見を養うことを目指す。	
		Maritime Safety and Security Policies	海上安全及び海洋の安全保障に関連する政策及び海上保安制度についての分析能力を獲得することを目標とする。参加者は、あらかじめ教員と参加者で決定したアサインメントの論文を読み、ディスカッションに参加することが求められる。また、各授業ごとに参加者が話題提供者として、アサインメントの論文を要約して報告するとともに、議論の論点を提示する。各授業における議論に対する貢献度及び、報告の内容をもとに評価する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
海洋 利用 技術 領域	Maritime Security : Law and Policy		(概要) 本授業は、4名の教員によるオムニバス方式である。講義形式を基本とし、各回のテーマについて具体的事例を交えながら解説する。この授業における目標は、海上安全に関わる諸課題についての体系的な理解及びそれに基づいた法的・政策的な観点からの思考方法と分析能力を習得することである。前半（第1～9回）では、海上における具体的な法的課題を国際法と刑法の観点から検討する。中盤（第10～11回）で国内海運業と安全マネジメントシステムについて学ぶ。後半（第12～15回）では、国際海事政策の形成過程と国内実装の実際を扱う。 (オムニバス方式／全15回) (57 下山 憲二／4回) 漁業（IUU漁業含む）、海賊・海上テロ（国際法の観点から）、海洋調査、継続追跡権 (59 新谷 一朗／5回) 国際刑事法の基礎知識、逃亡犯罪人引渡しと司法共助、海賊（刑法の観点から）、テロ・人身取引（刑法の観点から）、密輸・密航 (126 竹本 七海／2回) 国内海運業の発展過程と政策、海上安全マネジメントシステム (97 鮫島 拓也／4回) 国際海事機関と海事政策、政策手段としての国際規範、アジェンダ設定と合意形成、国内実装における課題	オムニバス方式
	International Law and International Organization		この授業は、国際機関と国際法の展開的な理解を得ること、そしてそれにより、政策やプログラムの立案とそれらの実施に必要なとなる交渉を、国際機関の仕組みを積極的に使って行う能力を高めることを目的としている。また、国際公務員に関する法律と制度についても扱う。海洋に関する基準や政策に関連する国際機関に特に焦点を当てる。国際法の基礎知識があることが推奨される。セッション毎の課題文献を用意する。	
	Advanced Energy Plant		(概要) 我が国では、化石エネルギー資源に乏しく、新エネルギー資源を含めてもエネルギー需給の逼迫が懸念されている。また、地球規模では、人口増大と化石燃料の大量消費に伴う温暖化等の地球環境問題が深刻化している。従って、低環境負荷な再生可能エネルギーを利用しながら、エネルギー安定供給・環境保全・持続的経済発展を実現できる循環型社会の構築が喫緊の課題となっている。 講義では、エネルギー需要と環境問題、天然資源（化石資源、バイオマス等）、化石燃料の利用と転換プロセス、バイオマスエネルギー、太陽光・風力・原子力等の再生可能エネルギー概論、バイオマスエネルギー転換プロセスとその経済性評価、及び再生可能エネルギー利用による地球温暖化防止に向けた対策等について説明し、議論する。 (オムニバス方式／全15回) (36 市川 貴之／8回) エネルギー需要と環境問題、天然資源（化石資源、バイオマス等）、化石燃料の利用と転換プロセス、バイオマスエネルギー、太陽光・風力・原子力等の再生可能エネルギーについて解説する。 (73 花岡 寿明／7回) バイオマスエネルギー転換プロセスとその経済性評価、及び再生可能エネルギー利用による地球温暖化防止に向けた対策について解説する。	オムニバス方式
	Advanced Structural Concrete		(概要) コンクリート構造物の時間依存性挙動を含めたせん断問題を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (69 半井 健一郎／10回) 概要、コンクリート構造物のせん断耐力（1）～（7）、まとめ (133 NGUYEN HUU MAY／5回) コンクリート工学（1）～（5）	オムニバス方式
	Environmental Fluid Mechanics		この講義では河川や貯水池のような水域での運動量や物質の輸送過程を議論する。水域でのさまざまな混合過程の特徴を説明するとともに混合現象を記述する乱流モデルを紹介する。	
	Mechanical Engineering Design		位置決めを機能とし、高い運動精度を求められるメカトロニクス・システムの設計に関して、機械工学のエンジニアとして知っておくべき実際の知識を学ぶ。位置決めシステムを構成する機械要素である、サーボモータ、ボールねじ、リニアモータ、案内、エンコーダなどについて、原理と、どのような原因で運動誤差が生じるかを学ぶ。また、位置決めシステムの運動精度の測定法を学ぶ。さらに、複数の軸を組み合わせた多軸位置決めシステムを対象として、機構学を基礎とした新しい測定法の考え方を講述する。座標変換の考え方に基づく多軸位置決めシステムの幾何学モデルの導出理論と、それを基礎とした測定、誤差原因診断、数値補正を説明する。本授業では基本的に、主に工作機械の多軸位置決めシステムを題材とする。	
	Control System Design		(英文) The purpose of this series of lecture is to provide fundamental tools for analyzing and synthesizing robust and nonlinear control systems. (和訳) 本講義の目的は、ロバスト制御および非線形制御システムを解析・設計するための基礎的手法を修得することである。	
	Strength and Fracture of Metals		材料物性学、材料組織学、機械材料学、材料成形学の基礎的事項を修得した者を対象に、表面処理技術の原理、手法および特徴を解説する。また、材料複合プロセスの観点から、材料の高機能化、高信頼性化と表面処理との関連を解説する。更に、物理的・化学的加工法の原理や特徴を解説するとともに、それらを用いた各種プロセスへの最新応用に関し実用例を交えて解説する。	
	Laser Material Processing		3Dプリンタや半導体露光装置と今日の産業界で必要不可欠なレーザ加工技術は、一つのレーザ光という工具を用いて3大加工法である除去・接合・成形加工を実現できる唯一の加工法である。本講義では大出力のレーザ加工用光源の種別と特性、レーザ光の特徴と品質、レーザ加工プロセスを理解するための要素等の基礎を学び、レーザ加工に必要な光学と材料加工学を学習する。それに加え、加工法として広く普及しているレーザ切断、溶接、表面改質を中心にその実用を解説するとともに、最先端のレーザ加工技術について先進的な開発内容を講義する。	

授		業		科		目		の		概		要	
(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）)													
科目 区分		授業科目の名称		主要授業科目		講義等の内容						備考	
		Optimization of Structural and Process Design				(英文) This series of lecture consists of three parts. The first one is on the fundamental theory of optimization for mechanical engineering. The second one is the optimization techniques and their engineering applications. The third one is on the optimization problems in elasto-plasticity field such as design optimization for metal forming process, structural design optimization, material parameter identification and so on. In this lecture, special emphasize is placed on the optimization in engineering elasto-plasticity. (和訳) 本講義は三つの部分から構成されている。第一部では、機械工学における最適化の基礎理論を扱う。第二部では、最適化手法およびその工学的応用について学ぶ。第三部では、金属成形プロセスの設計最適化、構造設計最適化、材料パラメータ同定など、弾塑性分野における最適化問題を取り上げる。特に工学的弾塑性における最適化に重点を置く。							
		Infrastructure and Regional Planning				(英文) • to understand the basic regional planning methodology and modeling based on the regional economics • to understand the theoretical background of spatial statistics for regional data set, and its empirical applications • to understand the optimal facility location theory, and its application for facility location planning of public sector (和訳) 本講義は、以下を目的として実施する。 • 地域経済学にもとづく基本的な地域計画の方法論およびモデリングを理解すること。 • 地域データセットを対象とした空間統計の理論的背景と、その実証的応用を理解すること。 • 最適施設配置理論を理解し、公共部門における施設配置計画への応用を習得すること。							
		Transportation Planning				(英文) In this course, students will learn a series of methodologies used in developing transportation planning, including travel demand modeling, traffic assignment, and cost-benefit analysis. (和訳) 本講義では、交通需要予測、交通量配分、費用便益分析を含む、交通計画の策定に用いられる一連の方法論を学ぶ。							
		Advanced Marine Information Engineering				(概要) 海洋・海事分野における船舶・港湾・海洋構造物データの国際的利用動向や規制、海事サイバーセキュリティを学ぶとともに、海洋現象の基礎理解、資源・環境問題への取組を踏まえ、電子計測による海潮流観測、数値シミュレーションおよび人工衛星データを用いた解析を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (14 陸田 秀実/1回) 大気・海洋環境の評価・予測技術について学ぶ。 (8 作野 裕司/1回) 沿岸の環境に関するリモートセンシング工学について学ぶ。 (15 山本 浩万/1回) 大気環境に関する衛星・地上計測技術について学ぶ。 (93 岸 拓真/4回) 船舶・港湾・海洋構造物のデータ利用の世界的動向・規制、海事サイバーセキュリティに関する世界的動向 (80 山田 智貴/4回) 地球システムにおける海洋（大洋、沿岸海域等）の定義、海洋における様々な現象のメカニズム、調査・探査の目的とその方法、資源（エネルギー、鉱物、水産資源等）、空間の利用、環境問題の実態と解決への取組等について学ぶ。 (64 千葉 元/4回) 各種の電子計測機器を用いた海潮流の観測を行い、数値シミュレーションや人工衛星観測との比較検証を実施する。日本海や瀬戸内海での特有の現象を捉え、その流れが発生する機構の分析も実施する。						オムニバス方式	
		Introduction of Ship Operation				(概要) 船舶運航に必要な基礎知識について教授する。まずは、船舶運航の基本となる船体運動や復原性能について概説するとともに、運航者として知っておかなければならない基本的事項について説明する。次に、船舶を動かす主機関（ディーゼルエンジン）の構造・特性、船用補機の構造・原理等について概説するとともに、環境規制やカーボンニュートラル実現に向けて開発が進んでいる次世代燃料等についても紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (68 中山 喜之／4回) 船舶の種類と海上輸送、船体運動（操縦性能）の概要 (128 政本 慎弥／4回) 船舶の主要目と船体構造、船舶の復原性能の概要 (90 小口 瞳史／4回) ディーゼルエンジンの構造・仕組みの概要、ディーゼルエンジンの熱力学的特性・熱効率向上方法、重油に代わる次世代燃料の燃焼特性 (118 渡邊 和英／3回) 船用補機の構造・作動原理、環境規制対応機器や次世代燃料機器、燃料油・潤滑油の管理						オムニバス方式	

授業科目の概要				
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
海洋環境・海洋資源領域	Fish Biology and Ecology		魚類の分類群についての概観をとらえ、それぞれの生態と行動の特徴についての理解を深め、サンゴ礁生態系の生物構造を概観しうる力を養う。また、水圏生物の野外調査における方法論の特殊性と有効性についても理解を深める。具体的研究事例を通じて魚類の社会生態に関する専門的知識を習得し、魚類社会の特性理解を深める。	
	Atmospheric Hydrospheric Chemistry (Maritime)		(概要) 大気水圏中の汚染物質を中心とする化学物質の研究の歴史、その計測法や動態解析法に関して講義する。特に生命科学的、環境科学的な視点から気水圏の微量汚染物質、活性化学種の光化学反応過程に注目して講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (61 竹田 一彦/6回) 水圏における物質循環 (1)無機物質について 水圏における物質循環 (2)有機物質について 水圏における物質循環動態解析法 水圏における光化学過程 大気水圏における物質循環の化学的計測法 (1)元素分析 大気水圏における物質循環の化学的計測法 (2)クロマトグラフィー (88 岩本 洋子/4回) 大気圏における物質循環 (1)無機物質について 大気圏における物質循環 (2)有機物質について 大気圏における光化学過程 大気圏における物質循環動態解析法 (61 竹田 一彦・88 岩本 洋子/5回) (共同) イントロダクション 大気水圏における物質循環に関する論文講読と発表・討論 (1)無機主成分 大気水圏における物質循環に関する論文講読と発表・討論 (2)無機微量成分 大気水圏における物質循環に関する論文講読と発表・討論 (3)有機主成分 大気水圏における物質循環に関する論文講読と発表・討論 (4)有機微量成分	オムニバス方式・共同 (一部)
	Sustainable Marine Environment		特徴的な海洋環境、生態系、藻類を活用した保全策を説明する。同時に、これら環境のレストレーション方法やスマート水産についても議論する。	
	Earth Materials		(概要) 前半は、地球を構成する岩石・鉱物の特徴や成因と、それらをどのような手法で調べるかを学ぶ。特に、地球表層で生じる物理的過程・化学的過程において大きな役割を果たす水の働きに注目し、岩石と水との反応や水を介した物質輸送の進み方、それらを定量的に理解するための数値計算手法などを学ぶ。後半は、地下の帯水層を構成する地質媒体と帯水層中の生物地球化学過程、沿岸域への物質輸送と堆積物形成過程、また、沿岸域地下での環境問題について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (81 横山 正/8回) はじめに・地球構成物質の概観、岩石の調べ方、鉱物の溶解と沈殿、岩石の浸透率と間隙構造の画像解析、拡散現象とそのプログラミング、岩石-水反応の具体例：花崗岩類の風化、鉄さびの生成と岩石の色変化、発表 (21 齋藤 光代/7回) 地下帯水層を構成する地質媒体、地下帯水層中の生物地球化学過程、沿岸域への物質輸送、沿岸堆積物の形成過程、沿岸域地下における環境問題、地下資源とエネルギー利用、発表	オムニバス方式
	Dynamics of Earth Surface Material Cycle		(概要) 地球表層の物質循環への人間活動の影響が様々な地球環境問題を引き起こしてきた。本講義では、地球表層の物質循環、特に流域スケールでの地形・地質特性を踏まえて、物質輸送を学ぶことを目的とする。さらに、それを支配する地形・水文過程、陸域―海域相互作用について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (5 小野寺 真一/7回) 地球表層物質輸送への招待、水文過程、窒素循環・リン循環、地下水流動と物質輸送、陸域―海域相互作用、流域での洪水流出 (野外)、森林流域の流出特性 (野外) (134 平山 恭之/7回) 流域に形成される様々な地形 (景観・侵食・運搬・堆積)、流域における地質と谷地形形成との関連、流域における物質移動、岩石の風化作用、ケイ素の起源と生成―岩石の風化 (溶解)、黒瀬川周辺で見られる地形と地質 (野外) (5 小野寺 真一・134 平山 恭之/1回) (共同) まとめ	オムニバス方式・共同 (一部)

授		業		科		目		の		概		要	
(海洋・海事系実践科学研究院 (修士課程))													
科目 区分		授業科目の名称		主要授業科目		講義等の内容						備考	
		Water Security				地球の自然環境と私たちの生活には、健全な水環境の維持が不可欠である。しかし、現代の人間活動は、水資源の枯渇や汚染、気候変動による水循環の変化など、水危機につながるさまざまな問題を引き起こしている。本講義では、水資源と環境に関わる問題のメカニズムを理解し、水の安全保障の観点から持続可能な解決策を考える力を養うことを目的とする。							
		Energy Science and Technology				(英文) The climate change, especially global warming due to CO2 emission from the combustion of fossil fuels, has been a major concern in the last few decades. In order to mitigate the global warming the reduction of energy consumption is essential in terms of energy saving and efficient utilization. In this lecture, the fundamental principle for energy production and utilization in energy science and engineering will be studied to understand the current energy technology. The advanced energy production and utilization technology to reduce energy consumption will be discussed based on the strategies for sustainable development. (和訳) 近年数十年にわたり、化石燃料の燃焼に伴う CO ₂ 排出による地球温暖化をはじめとする気候変動は、大きな懸念事項となっている。地球温暖化を緩和するためには、エネルギーの節約および効率的利用の観点から、エネルギー消費の削減が不可欠である。本講義では、現在のエネルギー技術を理解するために、エネルギー科学およびエネルギー工学におけるエネルギー生産と利用の基本原則を学ぶ。また、持続可能な開発の戦略にもとづき、エネルギー消費削減のための先進的なエネルギー生産・利用技術について議論する。							
		Advanced Environmental Chemistry Engineering				題材として水環境問題を取り上げる。水環境中での汚染物質の挙動、汚染機構、モニタリング手法、そして水環境を取り巻く問題を理解すると共に、物理・化学的、生物学的水処理プロセスを学ぶ。							
		Geotechnical Engineering				(英文) This lecture is focusing on resilience and mitigates infrastructure maintenance technics under any natural disaster.The three topics are selecting and explain the mechanism of rehabilitation or reinforcement of physical properties. (和訳) 本講義は、自然災害下におけるレジリエンスの確保と、インフラ維持管理技術の高度化に焦点を当てるものである。三つの主要トピックを取り上げ、それぞれについて、物理的特性の回復や補強のメカニズムを選定し、解説する。							
		Basic Oceanography and Hydrography				(概要) 本授業は、3名の教員によるオムニバス形式で実施する。授業は講義形式で実施し、海洋学及び水路学の基礎について学習する。授業の順序は教員間の調整により決定する。 (オムニバス方式／全15回) (47 川村 紀子／6回) 地球物理学的な観点から海洋地質学についての内容を講義する。 (35 石川 直史／3回) 海洋観測や水路業務の基礎について解説する。 (110 堀内 大嗣／6回) 気象学及び海洋学のうち、海上での活動において特に留意すべき分野について重点的に論ずる。						オムニバス方式	
実践 モジュール 科目		Internship				現地での就業体験を通じて、実践科学のための訓練を行う科目として位置づけられる。国内外の民間企業、国際機関、政府機関、非営利団体などへのインターンシップを通じて、企業や組織の運営を学び、関連する社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る実習科目である。							
		Fieldwork				現地での調査研究活動を通じて、実践科学のための訓練を行う科目として位置づけられる。フィールドワークとは、国内外のフィールドで実施される調査研究活動である。本科目は、指導教員の指導のもとに学生が作成した、フィールドワーク実施計画書（調査目的、期間、地域、調査内容、連絡先、指導教員のサインなど）に基づき行われる。							
		Project Management				本講義では、海洋・海事・造船分野で活躍する企業の方を招聘し、当該分野の重要性と社会的役割、および、モノづくりプロセスの基礎・応用を紹介する。また、国家プロジェクトや大型プロジェクトなどの遂行プロセスおよびマネジメントにおける成功事例及び失敗事例を学ぶとともに、将来、プロジェクトマネジメントで必要となる知識・技能・問題発見力・構成員力・コミュニケーション力を身につける。							
		Young Professionals Preparing for Careers in International Organizations				(英文) The course provides practical management methods for projects focusing on ODA (Official Development Assistance) scheme in terms of participatory planning, project monitoring with earned value management, and performance evaluation using DAC 5 criteria. In this class, students will participate the workshop for PCM, exercise the project monitoring and evaluation methods, and study the cases of international cooperation projects. (和訳) 本講義では、政府開発援助 (ODA) スキームを対象としたプロジェクト管理の実践的手法について学ぶ。具体的には、参加型計画、EVM (アーンド・バリュー・マネジメント) を用いたプロジェクトモニタリング、DAC5基準にもとづくパフォーマンス評価を中心に扱う。授業では、PCM (プロジェクト・サイクル・マネジメント) のワークショップへの参加、プロジェクトのモニタリングおよび評価手法の演習、国際協力プロジェクトの事例研究を通じて、国際開発分野におけるプロジェクト管理の基礎と実務的視点を身につけることを目的とする。							
		Developing Designing Ability				(概要) 実践的なディベートを通じて、現場でのインターンシップ経験を多角的な知識と批判的に関連付けながら解釈・議論するプロセスを学ぶ。 期待される効果は、 (1) 専門職業人になるためのコンピテンシーを理解し、ディベート技法を習得すること。 (2) ディベート演習を通じて、課題解決能力すなわち課題の本質を理解し、複数の解決策を模索し、関連する知識や能力を動員して解決すること、を身につけること。 (3) 実践的ディベートを通じて、複眼的な視野からディベートの主題を理解し、分析的にかつ論理的に議論を展開できる能力を身につけること。 (オムニバス方式/15回) (84 李 漢洙／3回) 背景、目的、ディベートの概要、ディベート技術について講義を行う。 (84 李 漢洙・99 JOSHI NIRAJ PRAKASH／12回) (共同) 実践ディベートの準備、実践ディベート、中間評価、ディベート本戦、公開ディベート、振り返りを行う。						オムニバス方式・共同 (一部) 講義 6時間 演習 24時間	

授業科目の概要

(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程））

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
修士論文モジュール科目	Seminar on Master Thesis		(概要) 研究領域を融合させた実践科学の分野における研究力を習得し、専門力を応用して学術論文を完成させるために必要となる応用的専門知識とスキルを習得することを目標とする。 広範な課題発見能力、中核となる専門分野における研究の遂行に必要な専門知識（研究倫理を含む）、理論、計算手法、実験手法、測定・観測技術等を習得させるとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、既存研究のレビュー、調査・実験の方法、データ処理・分析手法、論文執筆、発表方法の習得（研究倫理を含む）等、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため、指導を行う。 (6 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 人的資源開発・管理論、技術経営論、中小企業経営論に関する研究指導を行う。 (30 楼 ジェ) 国際法と刑事法の運用領域に関する研究指導を行う。 (19 掛江 朋子) 紛争解決論、国際法に関する研究指導を行う。 (26 戸崎 洋史) 国際安全保障に関する研究指導を行う。 (32 I Gusti Bagus Dharma Agastia) 海洋安全保障に関する研究指導を行う。 (31 山本 哲史) 海洋国際法を中心とする国際法に関する研究指導を行う。 (33 趙 勝新) 海事産業の現状と歴史分析に関する研究指導を行う。 (16 山本 元道) 新しい溶接・接合プロセス開発に関する研究指導を行う。 (13 濱田 邦裕) システム思考を利用して輸送システムの分析・モデル化・最適化に関する研究指導を行う。 (14 陸田 秀実) 流体力学に基づいて輸送機器及び環境エネルギーに関わる研究指導行う。 (8 作野 裕司) リモートセンシングを応用した海洋環境計測手法に関する研究指導を行う。 (22 新宅 英司) 安全管理のための計測技術と情報処理、輸送機器関連システムの制御に関する研究指導を行う。 (27 中島 卓司) 輸送機器周りの流れ現象解明と流体力学的性能向上に関する研究指導を行う。 (23 田中 義和) 輸送機器に使用される材料の強度・海洋浮体構造物の構造応答・材料の電磁特性の応用に関する研究指導を行う。 (24 谷口 直和) 海上輸送システムへの貢献を目的とした観測をベースにした海洋研究、海洋・海事関連データの解析・データサイエンスに関する研究指導を行う。 (15 山本 浩万) 地球環境に関わる衛星搭載型光学センサの校正検証に関する研究指導を行う (25 陳 辰) 海洋気象海象、ウェザールーティング、海上輸送安全に関する研究指導を行う。 (12 畠 俊郎) 土砂災害に対する防災・減災技術の開発と地盤微生物の利用に関する研究指導を行う。 (3 内田 龍彦) 河川流と土砂輸送の機構解明と解析手法の開発に関する研究指導を行う。 (2 茨木 創一) 位置決めシステムの3次元運動計測・制御に関する研究指導を行う。 (18 和田 信敬) 機械制御システムの解析・設計に関する研究指導を行う。 (1 曙 紘之) 数値シミュレーションによる微小き裂進展機構の解明に関する研究指導を行う。 (4 岡本 康寛) レーザ加工、材料加工、放電加工に関する研究指導を行う。 (28 日野 隆太郎) 弾塑性変形や成形性についての実験ならびに解析法に関する研究指導を行う。 (11 中井 智司) 機能性材料や生物機能を用いた水環境の保全、修復プロセスに関する研究指導を行う。	

授業科目の概要				
(海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			(21 齋藤 光代) 陸域～沿岸海域における環境－地質－生態系間の相互作用に関する研究指導を行う。 (5 小野寺 真一) 地球表層物質輸送（水文地形学及び生物地球化学）に関する研究についての研究指導を行う。 (17 和田 茂樹) 海洋の生物と環境の相互作用に関する研究指導を行う。 (10 富山 毅) 水圏資源生物学の手法を用いて、魚類生活史に関する課題の研究指導を行う。 (20 斉藤 英俊) 水族生態学の手法を用いて、生物群集における捕食・競争・寄生に関する課題の研究指導を行う。 (29 吉田 将之) 生物学的心理学の手法を用いて、動物の行動・心理特性に関する課題の研究指導を行う。 (7 小池 一彦) 海洋生態系評価論の手法を用いて、微細藻類に関する課題の研究指導を行う。	